

# 「岩手の幸福に関する指標」研究会（第2回）

日時：平成28年7月21日（木）

15：15～17：15

場所：岩手県立大学アイーナ

キャンパス7階学習室1

## 次 第

### 1 開 会

### 2 挨拶

### 3 協議事項等

（1）「岩手の幸福に関する指標」と政策評価

（2）主観的幸福度等に関する県民意識調査の分析結果について

（3）検討項目

- 幸福の概念
- 幸福に関する領域
- 指標の表現方法
- 指標の種類（Ⅰ主観的指標と客観的指標・Ⅱ指標設定の考慮事項）

（4）その他

### 4 閉 会

「岩手の幸福に関する指標」研究会 委員及びアドバイザー 名簿

(研究会委員)

氏名	役職名
竹村 祥子	岩手大学人文社会科学部 教授
谷藤 邦基	株式会社イーアールアイ 監査役
山田 佳奈	岩手県立大学総合政策学部 准教授
吉野 英岐	岩手県立大学総合政策学部 教授
若菜 千穂	特定非営利活動法人いわて地域づくり支援センター 常務理事

(アドバイザー)

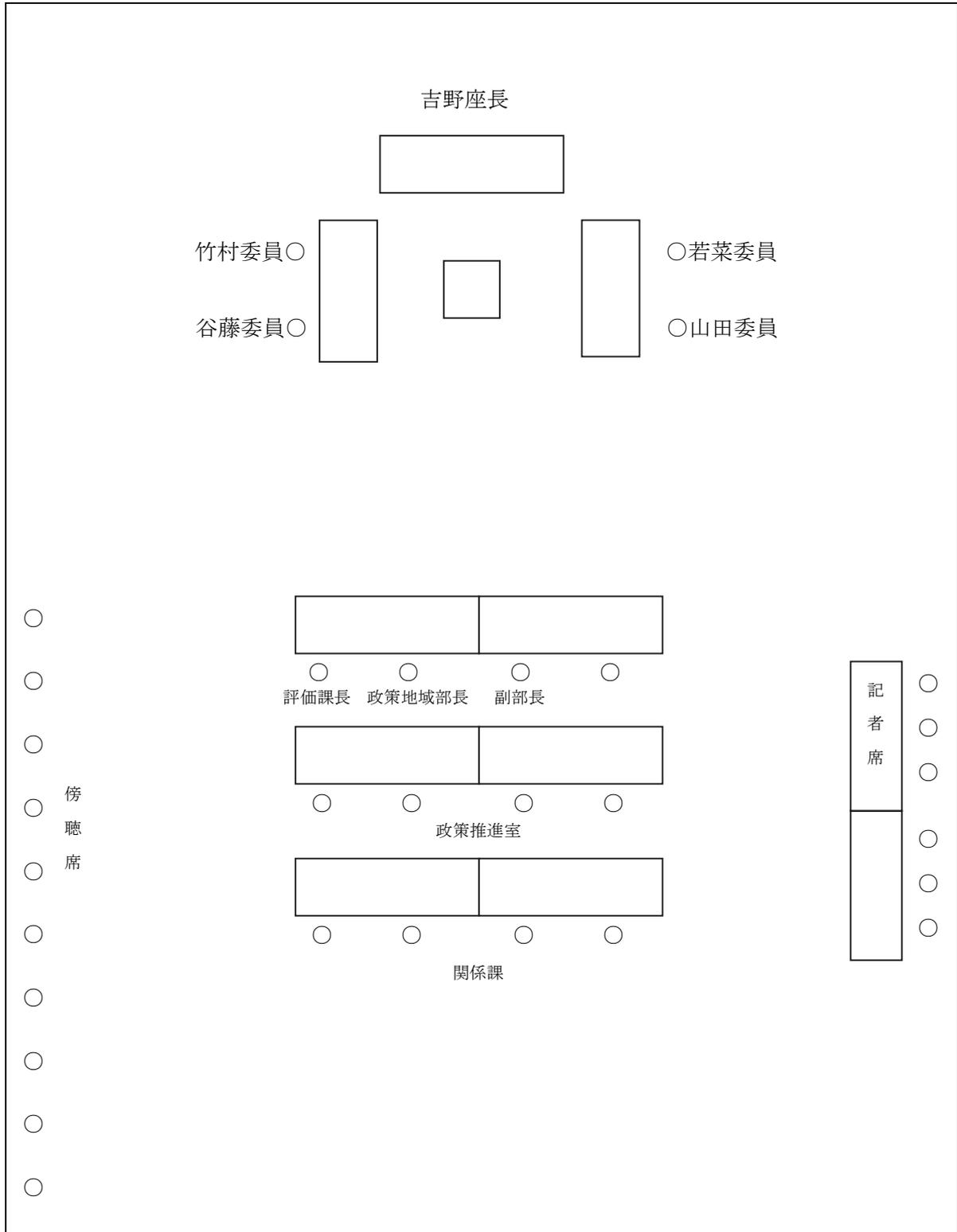
氏名	役職名
広井 良典	京都大学こころの未来研究センター 教授

(敬称略 50 音順)

# 「岩手の幸福に関する指標」研究会（第2回）座席表

日時：平成28年7月21日（木）15:15～17:15

場所：岩手県立大学アイーナキャンパス7階学習室1



## 資料一覧

- 資料1 「岩手の幸福に関する指標」と政策評価・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 資料2 主観的幸福度等に関する県民意識調査の分析結果について・・・・・・・・ 11
- 資料3 第2回「岩手の幸福に関する指標」研究会資料・・・・・・・・・・・・・・ 27

# 「岩手の幸福に関する指標」と政策評価

岩手県政策地域部政策推進室

平成28年7月21日(木)

1

## ◎目次

- I 「岩手の幸福に関する指標」の導入について
- II いわて県民計画について
- III 政策評価制度について
- IV 「岩手の幸福に関する指標」検討の考え方

2

# 1 「岩手の幸福に関する指標」の導入について

## 岩手の幸福に関する指標の導入について

### 1 「幸福に関する指標」導入の趣旨

- (1) 岩手県政の推進に当たり、物質的なゆたかさに加え、**岩手ならではの生き方やゆたかさ**にも着目すること、個人の幸福と集団全体の幸福との関係性といった視点を踏まえることが重要。
- (2) いわて県民計画第3期アクションプランの期間（平成30年度まで）において、**試行的に、「幸福に関する指標」の導入と評価等への活用を行う。**
- (3) **次期県民計画における本格導入を目指し**、県民等のご意見も踏まえた検討を行い、**県民の皆様と一緒に、どのような地域を目指すかを考える材料の一つとしていく。**
- (4) 指標設定に当たっては、**岩手に根ざした風土や文化、暮らし、また、東日本大震災津波からの復興に大きな力となっている地域や人のつながり**といった、**岩手ならではのゆたかさ**に着目。

### 2 「幸福に関する指標」導入の進め方

ステップ1 (H27年度)	ステップ2 (H28～29年度)	ステップ3 (H29～30年度)	ステップ4 (H31年度～)
<b>《事前調査》</b> ・平成28年1～2月に行った県民意識調査において、 <b>県民の幸福感、幸福に関して重視する項目や領域別の幸福感</b> について調査。	<b>《事前調査の検証・分析》</b> ・平成28年度前半において、 <b>県民意識調査による事前調査結果を分析。</b> ・外部有識者で組織する『「岩手の幸福に関する指標」研究会』において、 <b>県民意識調査の分析内容及び幸福に関する指標について意見等を聴取。</b>	<b>《県民意見の反映》</b> ・過年度に行った県民意識調査の結果及び研究会における議論等を基に、 <b>セミナー・ワークショップ等を開催し、幸福に関する指標について県民との意見交換を行う。</b> <b>(次期県民計画策定と連動して実施)</b>	<b>《本格導入》</b> ・ <b>次期県民計画において、幸福に関する指標の本格導入を目指す。</b> ・政策評価の実施と合わせて、 <b>県民の幸福感と関連指標の推移を把握・分析することにより、「幸福に関する指標」を切り口とした政策評価の支援ツールとして活用する。</b>

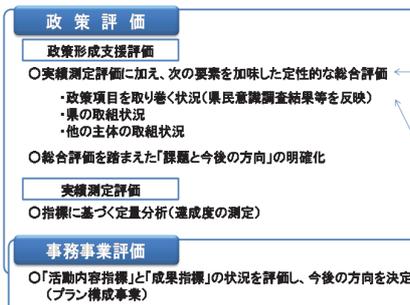
#### 「岩手の幸福に関する指標」研究会

・平成28年度に、外部の有識者からなる幸福に関する検討組織（『「岩手の幸福に関する指標」研究会』）を設置

#### 【研究会設置の考え方】

・幸福に関する指標については、専門家、研究機関による先行研究や、自治体等における先行導入の事例が存在することから、それらに関する専門的な知見を有する学識経験者等から意見を聞くことが重要。  
 ・本県の特徴を十分に踏まえ、本県の幸福についての確信に把握できる指標の導入に向けて、本県の社会経済的背景、地域の状況などについて広範な知見を有する有識者から意見を聞くことが重要。

#### 政策評価における幸福に関する指標の試行的活用の考え方



新規

幸福に関する指標の試行的活用  
 「17つの政策レベルを想定  
 これまでの政策評価に加え、幸福に関する指標の状況を分析し、その結果を明示  
 特徴的な分野や属性を把握することにより、施策の見直し等に活用

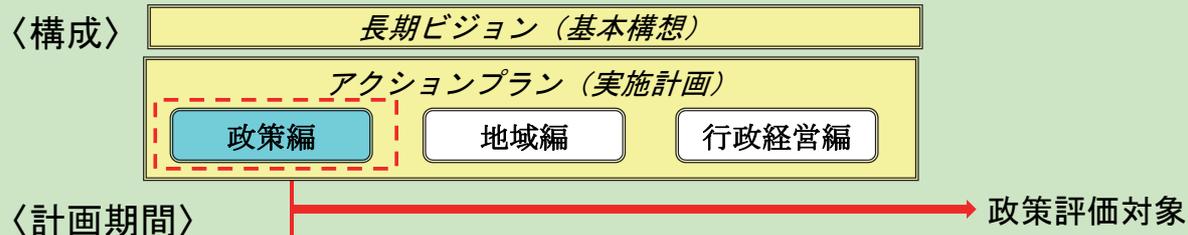
県民意識調査結果の活用  
 「14の政策項目」レベル  
 「政策項目を取り巻く環境」の一要素として活用  
 ・特にニーズ度の高い属性（地域、年齢層、男女）がある場合、それを明示

## II いわて県民計画について

5

### 1. 岩手県の政策構造(全体像)

#### 【いわて県民計画】(平成21～平成30年度)



岩手県ふるさと振興総合戦略  
(平成27年度～平成31年度)

6

## 2. いわて県民計画の構成

### 第1章

岩手の今を見つめる

世界と日本の変化 >>> 岩手の変化と現状 (-強みと弱み-)

- ▶ 急速なグローバル化の渦中にある岩手
- ▶ 人口減少・少子高齢化の一層の進行

### 第2章

「ゆたかさ」「つながり」「ひと」で岩手の未来を拓く

「ゆたかさ」をはぐくむ

「つながり」をはぐくむ

「ひと」をはぐくむ

### 第3章

私たちが実現していきたい岩手の未来

いっしょに育む「希望郷いわて」

“いきいき”と働いています

“安心”して暮らしています

“楽しく”学んでいます

### 第4章 岩手の未来の実現に向けた7つの政策

産業・雇用

医療・子育て・福祉

教育・文化

農林水産業

安全・安心

環境

社会資本・公共交通・情報基盤

政策の基本方向  
アクションプラン政策編

### 第5章 岩手の未来を切り拓く6つの構想

- ◎ 海の産業創造いわて構想
- ◎ 次世代技術創造いわて構想
- ◎ 環境共生いわて構想
- ◎ 元気になれるいわて構想
- ◎ 安心のネットワークいわて構想
- ◎ ソフトパワーいわて構想

横断的・先駆的に取り組む中長期の構想

### 第6章

地域振興の展開方向

- 4広域振興圏の振興
- 地域コミュニティの強化
- 広域的な連携の強化
- 県北・沿岸圏域及び過疎地域等の振興

アクションプラン地域編

### 第7章

県政運営の基本姿勢

- 県民とともに未来を切り拓く県政

アクションプラン行政経営編

7

## 3. アクションプラン政策編 -7つの政策と42の政策項目-

### I 産業・雇用

- 1 国際競争力の高いものづくり産業の振興
- 2 食産業の振興
- 3 観光産業の振興
- 4 地場産業の振興
- 5 次代につながる新たな産業の育成
- 5-2 科学技術によるイノベーションの創出
- 6 商業、サービス業の振興
- 6-2 中小企業の経営力の向上
- 7 海外市場への展開
- 8 雇用・労働環境の整備

### II 農林水産業

- 9 農林水産業の未来を拓く経営体の育成
- 10 消費者から信頼される「食料・木材供給基地」の確立
- 11 農林水産業の高付加価値化と販路の拡大
- 12 いわての魅力ある農山漁村の確立
- 13 環境保全対策と環境ビジネスの推進

### III 医療・子育て・福祉

- 14 地域の保健医療体制の確立
- 15 家庭や子育てに夢をもち安心して子どもを生み育てられる環境の整備
- 16 福祉コミュニティの確立

### IV 安全・安心

- 17 地域防災力の強化
- 18 安全・安心なまちづくりの推進
- 19 食の安全・安心の確保
- 20 多様な主体の連携による地域コミュニティの活性化
- 21 多様な市民活動の促進
- 22 青少年の健全育成と若者の活躍支援
- 23 男女共同参画の推進と女性の活躍支援

### V 教育・文化

- 24 児童生徒の学力向上
- 25 豊かな心を育む教育の推進
- 26 健やかな体を育む教育の推進
- 27 特別支援教育の充実
- 28 家庭・地域との協働による学校経営の推進
- 29 生涯を通じた学びの環境づくり
- 30 高等教育の連携促進と地域貢献の推進
- 31 文化芸術の振興
- 32 多様な文化の理解と交流
- 33 豊かなスポーツライフの振興

### VI 環境

- 34 地球温暖化対策の推進
- 35 循環型地域社会の形成
- 36 多様で豊かな環境の保全

### VII 社会資本・公共交通・情報基盤

- 37 産業を支える社会資本の整備
- 38 安全で安心な暮らしを支える社会資本の整備
- 39 豊かで快適な環境を創造する基盤づくり
- 40 社会資本の維持管理と担い手の育成・確保
- 41 公共交通の維持・確保と利用促進
- 42 情報通信基盤の整備と情報通信技術の利活用促進

政策及び政策項目ごとに  
評価指標を設定

## (参考) 評価指標の例

### アクションプラン政策項目「1 国際競争力の高いものづくり産業」(抜粋)

#### 国際競争力の高いものづくり産業の振興

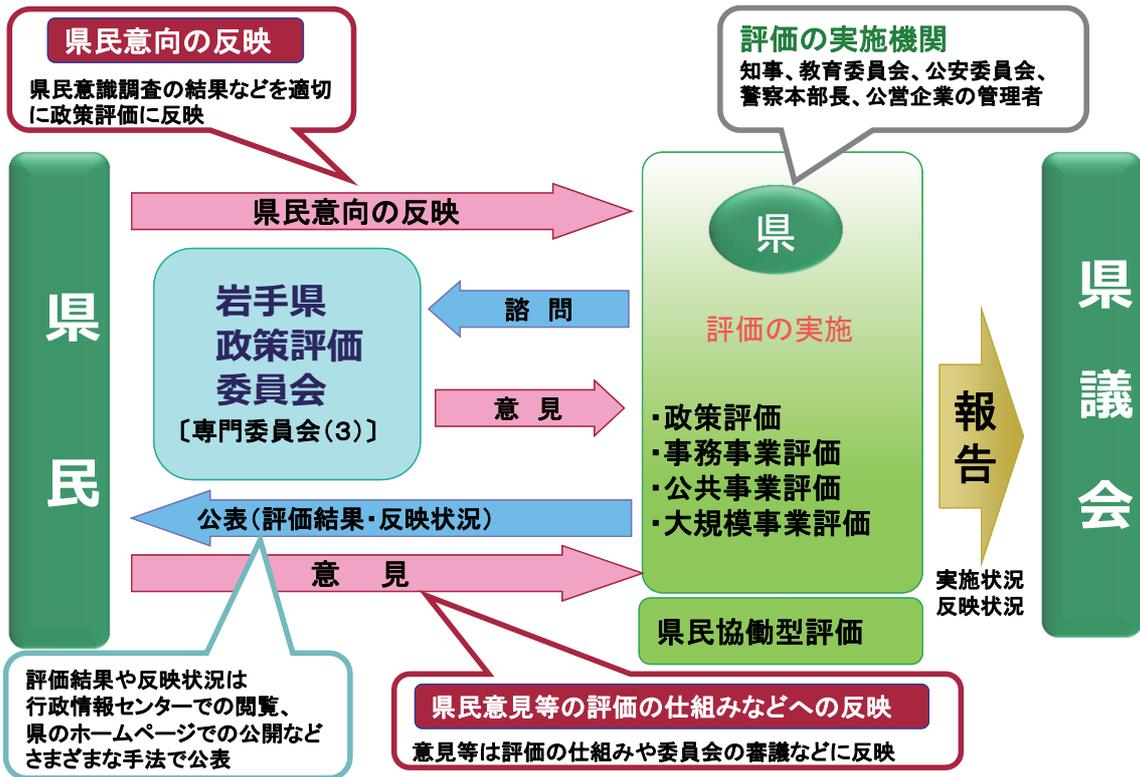
##### 1 みんなで目指す姿

高度な技術と優れた人材を強みとして、自動車・半導体関連産業の一層の集積と高度化に加え、県内各地の企業群による活発な事業活動が地域の産業・雇用に好循環をもたらすとともに、復興後の次なる展開にも繋がる新産業・新事業が着実に成長するなど、国際競争力の高いものづくり産業が地域経済をけん引しています。

指標	現状値 (H26)	年度目標値			計画目標 値 (H30)
		(H27)	(H28)	(H29)	
◎ものづくり関連分野(輸送用機械、半導体製造装置、電子部品・デバイス※ <sup>1</sup> 等)の製造品出荷額	㉔ 15,362 億円	㉕ 15,440 億円	㉖ 15,650 億円	㉗ 15,980 億円	㉘ 16,300 億円
【目標値の考え方】 自動車・半導体関連など、ものづくり関連分野の製造品出荷額について、4年間で約1,000億円の増加を目指すもの。					

## III 政策評価制度の概要

## 4. 岩手県の評価システムの概要



11

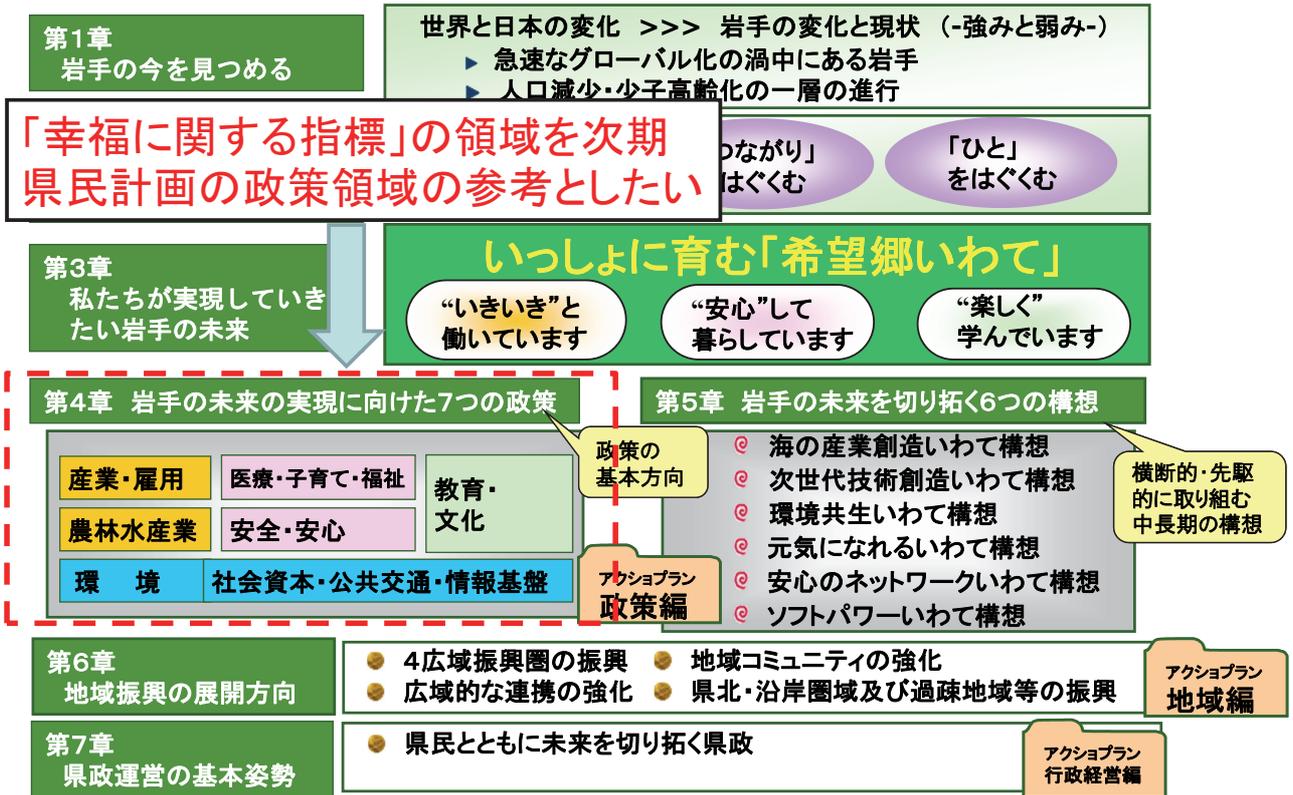
## 5. 年間の流れ



12

# IV 「岩手の幸福に関する指標」検討の考え方

## 【再掲】2. いわて県民計画の全体構成(長期ビジョン)



## 6. 中間報告に向けて研究会で御議論いただきたい内容

- 研究会においては、中間報告に向け、以下のような論点に対する基本的考え方を御議論いただきたい。
- いただいた御議論を踏まえつつ、県として、次期県民計画や個別の評価指標等について、具体的な検討を進めてまいりたい。

- (1) 幸福の概念  
議論の前提として、先行事例等を基に一定の共通認識を整理する。
- (2) 幸福に関連する領域  
先行事例によると幸福に関連する領域は概ね次のとおりであり、個人と集団の幸福といった視点も踏まえ、どの領域を設定するか検討する。  
①仕事、②収入、③健康、④家族、⑤子育て、⑥安全、⑦地域、⑧教育、⑨歴史・文化、⑩自然環境、⑪居住環境、⑫余暇、⑬その他
- (3) 指標の種類  
指標の構成において、主観的指標、客観的指標の取扱いをどうするか。また、どのような指標を設定するか検討する。
- (4) 指標の表現方法  
個別指標の集まりで示すか、一つの数値に統合するか検討する。
- (5) 岩手が目指すゆたかさを示す指標  
持続可能性、地域や人のつながり等、岩手が目指すゆたかさを踏まえた指標の設定について検討する。
- (6) 指標の活用方法  
政策評価における指標の活用のあり方や、県民参画による指標の活用方策などについて検討する。
- (7) その他

(第1回研究会資料抜粋)

第 2 回岩手の幸福に関する研究会提出資料  
主観的幸福度等に関する県民意識調査の分析結果について

平成 28 年 7 月  
岩手県政策地域部政策推進室

# 目次

はじめに	3
第1章 主観的幸福度について	5
1 設問	
2 集計結果	
(1) 県全体	
(2) 性別集計	
(3) 世代別集計	
(4) 居住地別集計	
(5) 職業別集計	
(6) 世帯構成別集計	
(7) 子どもの有無別集計	
第2章 幸福を判断する際に重視した項目について	9
1 設問	
2 集計結果	
(1) 県全体	
(2) 性別集計	
(3) 世代別集計	
(4) 主観的幸福度の評価結果別集計	
(5) その他で挙げられた項目について	
第3章 領域別幸福度について	14
1 設問	
2 集計結果	
(1) 県全体	
(2) 主観的幸福度との相関	

# はじめに

## 1 調査の目的

県では、「いわて県民計画」の政策に関連する項目について、県民の皆様がどの程度の重要性を感じ、現在の状況にどの程度満足しているか等を定期的に把握するため、「県民意識調査」を実施している。

平成 28 年度調査において、岩手の幸福に関する指標の検討に活用するため、県民の主観的幸福度等に関する調査を実施した。

## 2 調査の概要

- (1) 調査対象 県内に居住する 20 歳以上の男女
- (2) 調査対象者数 5,000 人
- (3) 抽出方法 選挙人名簿からの層化二段無作為抽出
- (4) 調査方法 設問票によるアンケート調査（郵送法）
- (5) 調査時期 平成 28 年 1 ~ 2 月
- (6) 調査項目
  - ア 生活全般の満足度
  - イ 「いわて県民計画」の 7 つの政策に関連する 46 項目に係る重要度、満足度について
  - ウ 幸福感等に関する調査
- (7) 有効回収率 71.5% (3,576 人/5,000 人)

### (8) 回答者の属性

( )内は%

【男女別】	回答者数	割合
男性	1,480	(41.4)
女性	1,929	(53.9)
不明	167	(4.7)

【居住地別】	回答者数	割合
県央広域振興圏	1,014	(28.3)
県南広域振興圏	1,065	(29.8)
沿岸広域振興圏	890	(24.9)
県北広域振興圏	607	(17.0)

【年齢別】	回答者数	割合
20 ~ 29 歳	209	(5.8)
30 ~ 39 歳	372	(10.4)
40 ~ 49 歳	497	(13.9)
50 ~ 59 歳	617	(17.3)
60 ~ 69 歳	811	(22.7)
70 歳以上	904	(25.3)
不明	166	(4.6)

【職業別】	回答者数	割合
自営業主	295	(8.2)
家族従業者	147	(4.1)
会社役員・団体役員	198	(5.5)
常用雇用者	938	(26.2)
臨時雇用者	403	(11.3)
学生	24	(0.7)
専業主婦(主夫)	435	(12.2)
無職(60 歳未満)	91	(2.5)
無職(60 歳以上)	731	(20.4)
その他	125	(3.5)
不明	189	(5.3)

## 3 用語の解説

- (1) 生活満足度...調査対象者の生活全般の満足度について、5 段階評価で調査したもの。
- (2) 主観的幸福度...調査対象者の幸福感について、5 段階評価で調査したもの。
- (3) 領域別幸福度...先行事例において、幸福に関係するとされている 12 の領域について、各領域の実感を 5 段階評価で調査したもの。

#### 4 その他

- ・ 「平成 28 年県の施策に関する県民意識調査結果報告書」では、調査結果を広域振興圏別で利用することを考慮し、実際の回答数に広域振興圏（市町村）別の人口構成比を反映する母集団拡大集計を行っているが、本分析では、広域振興圏別以外の複数の属性（性別、世代別、世帯構成別等）で利用することを考慮し、母集団拡大集計を行っていない。よって、集計結果が「平成 28 年県の施策に関する県民意識調査結果報告書」と異なる部分がある。
- ・ 各属性別の集計結果については、属性不明の回答を除いたものとなっている。
- ・ 四捨五入の関係で合計と内訳の計とが一致しない場合がある。

【結果概要】

- 主観的幸福度は、県民意識調査で把握した生活満足度と異なる結果を示すことから、生活満足度とは別に主観的幸福度を測定する意義がある。
- 多くの属性別集計結果において、先行研究等における調査と同様の傾向を示した。  
一方、既存の調査では子の有無が幸福度に与える影響は統計的に有意ではないとの結果が多いが、本調査では子どもの数3人までは主観的幸福度が高いという結果であった。

1 設問

先行研究等における事例を参考に、次の設問により調査対象者の主観的幸福度を調査した。  
選択肢については、県民意識調査の既存の項目と合わせ、5段階評価とした。

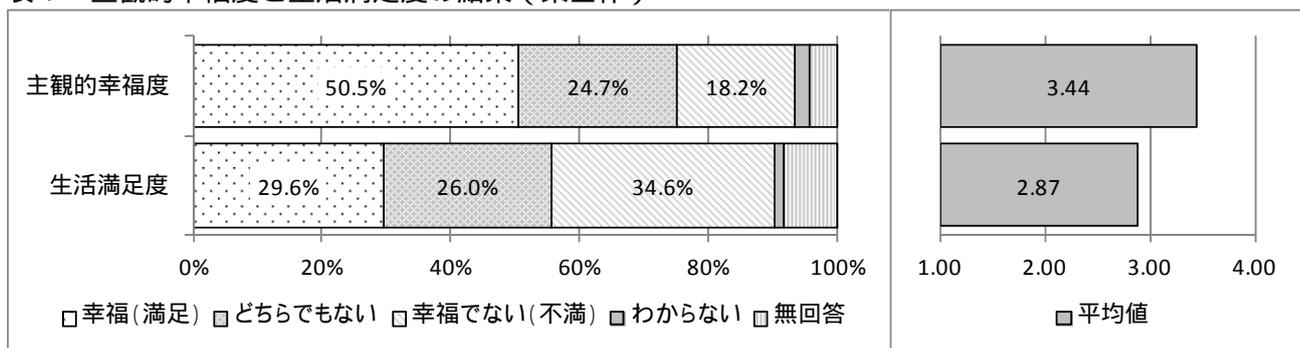
設問	あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。
選択肢	5 幸福だと感じている 4 やや幸福だと感じている 3 どちらともいえない 2 あまり幸福だと感じていない 1 幸福だと感じていない 0 わからない

2 集計結果

(1) 県全体

約50%の回答者が幸福と回答し、平均値は3.44であった(生活満足度の平均値は2.87)。

表1 主観的幸福度と生活満足度の結果(県全体)



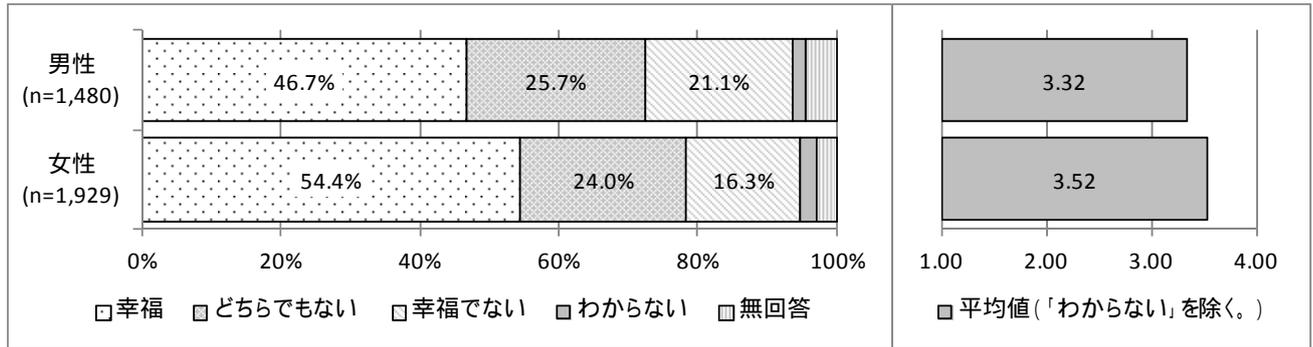
生活満足度については、「生活」という言葉が回答者にどちらかというとき金的・物質的満足感などを想起させる一方、主観的幸福度については「幸せ」という言葉が精神面での充足感を想起させるとの指摘がある<sup>1</sup>。

<sup>1</sup> 大竹文雄、白石小百合、筒井義郎(2010)「日本の幸福度 格差・労働・家族」

( 2 ) 性別集計

男性と比較すると、女性の主観的幸福度が高かった。

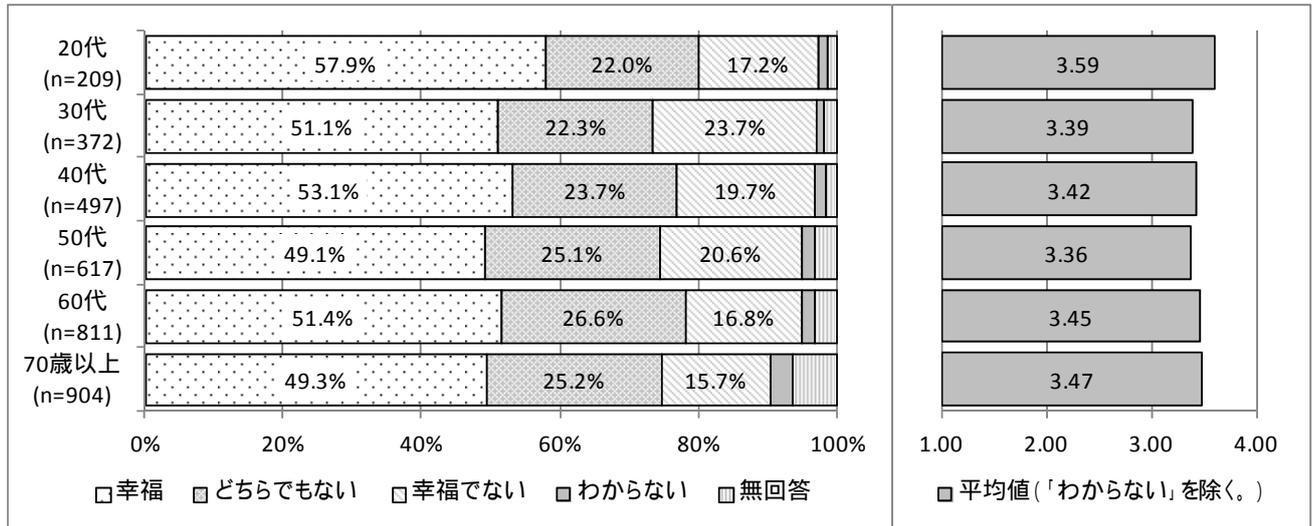
表2 主観的幸福度(男女別)



( 3 ) 年代別集計

傾向として、主観的幸福度は30~50代を底とするU字カーブを描いた。

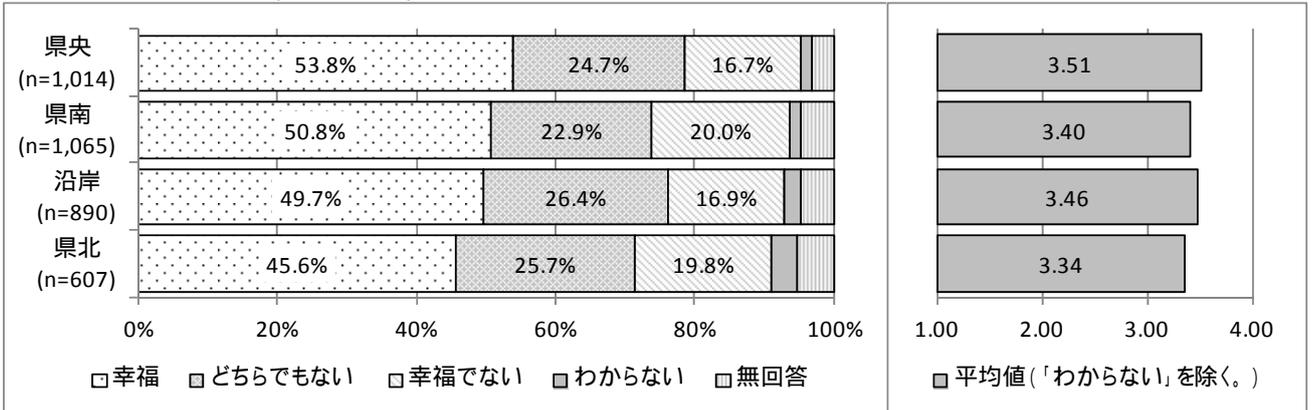
表3 主観的幸福度(年代別)



( 4 ) 居住地別集計

県央地域の主観的幸福度は高く、県北地域の主観的幸福度は低かった。

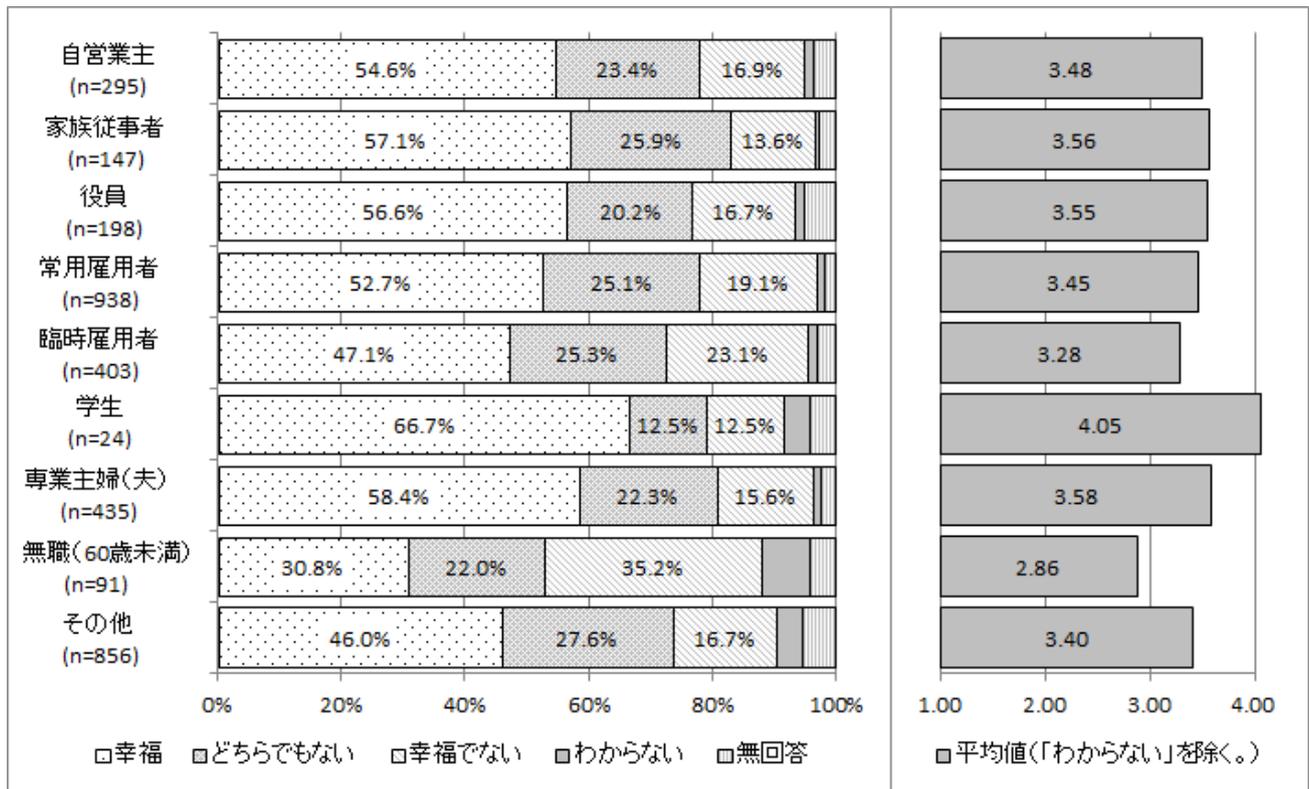
表4 主観的幸福度(居住地別)



( 5 ) 職業別集計

学生の主観的幸福度は高く、臨時雇用者及び無職の主観的幸福度は低かった。

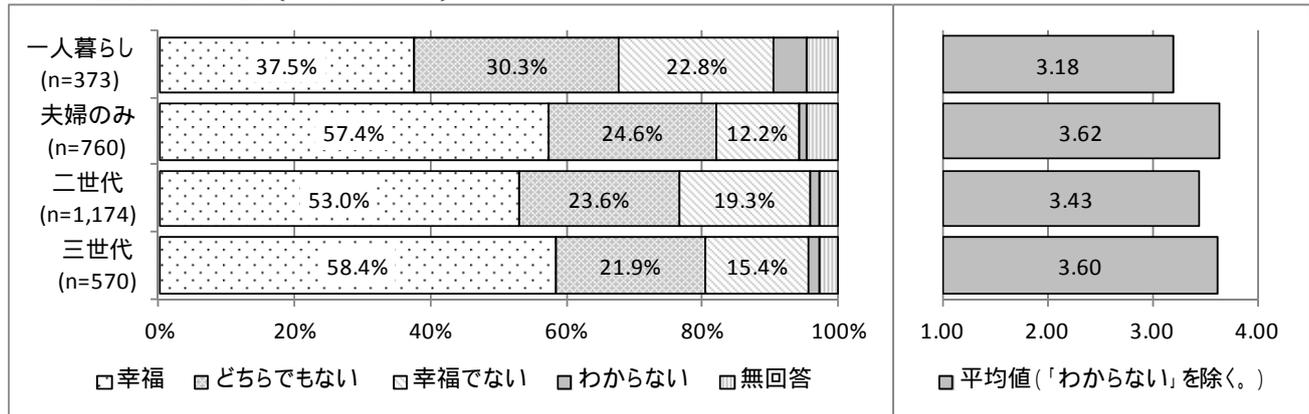
表5 主観的幸福度（職業別）



( 6 ) 世帯構成別集計

夫婦のみ及び三世帯の主観的幸福度が高く、一人暮らしの主観的幸福度は低かった。

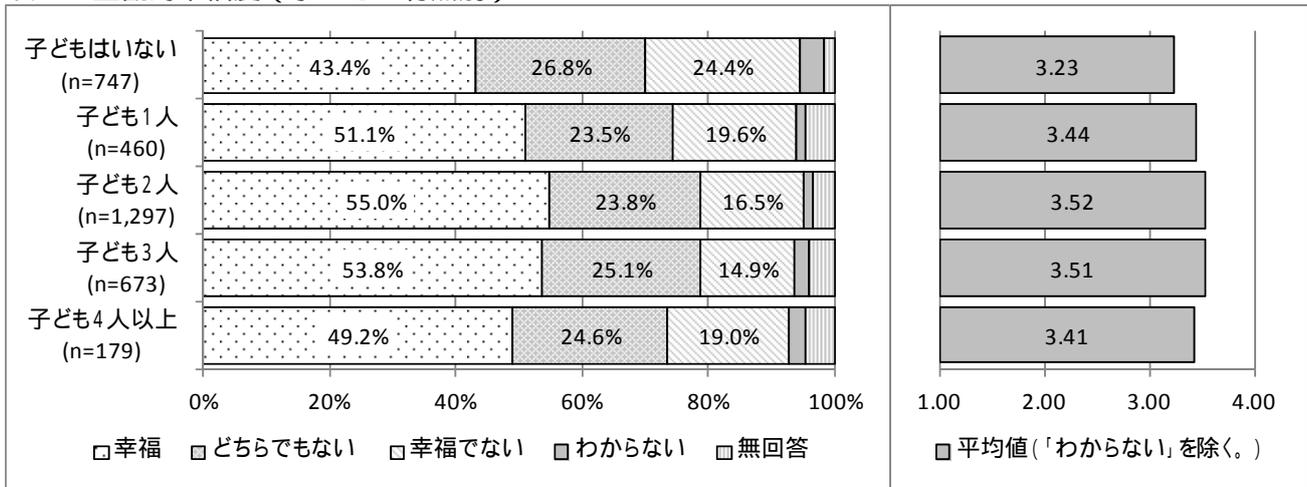
表6 主観的幸福度（世帯構成別）



(7) 子どもの人数別集計

子どもがいる方が主観的幸福度が高く、子ども2人の主観的幸福度が最も高かった。

表7 主観的幸福度(子どもの有無別)



## 第2章 幸福を判断する際に重視した項目について

### 【結果概要】

- 幸福を判断する際に重視する項目については、内閣府の調査や他県の事例と大きな差は見られなかった。
- 性別や年代によって重視する項目が異なっていた。
- 幸福な層は関係性を重視し、幸福でない層は家計の状況を重視する傾向があった。

### 1 設問

先行研究等における事例を参考に、調査対象者が幸福かどうかを判断する際に重視した項目を調査した。

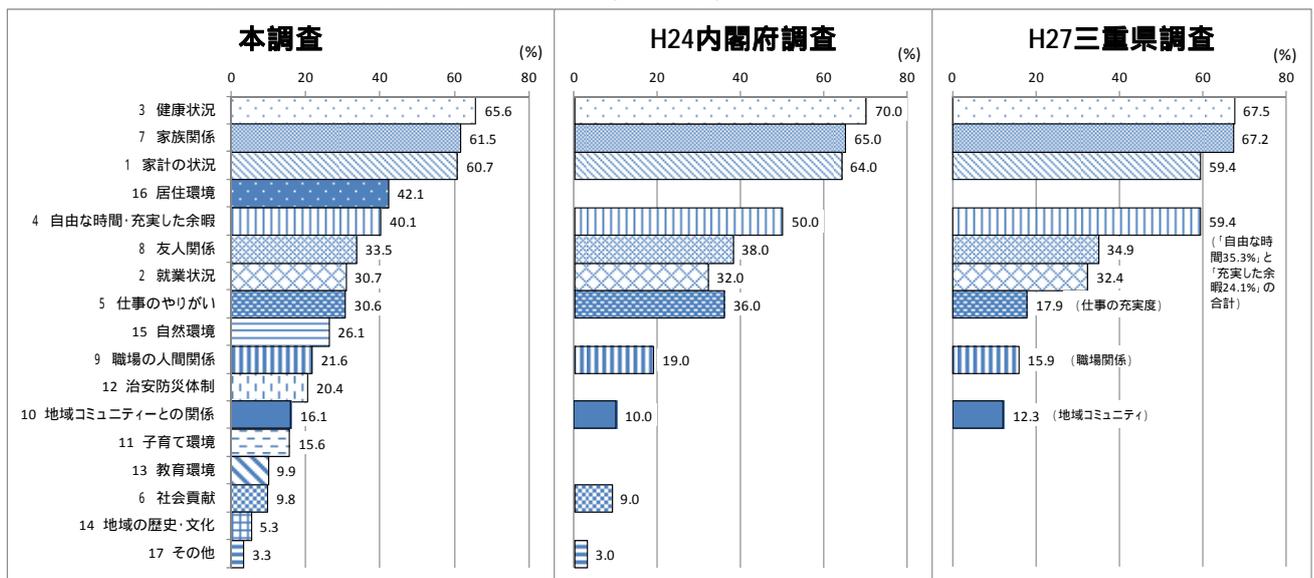
設問	あなたが幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか。(複数回答可)	
選択肢	1 家計の状況 2 就業状況 3 健康状況 4 自由な時間・充実した余暇 5 仕事のやりがい 6 社会貢献 7 家族関係 8 友人関係 9 職場の人間関係	10 地域コミュニティとの関係 11 子育て環境 12 治安・防災体制 13 教育環境 14 地域の歴史・文化 15 自然環境 16 居住環境 17 その他(具体的に： )

### 2 集計結果

#### (1) 県全体

他の事例と同様に、健康状況、家族関係及び家計の状況が重視される傾向があった。

表8 幸福かどうか判断する際に重視する項目(県全体)



出典：内閣府経済社会総合研究所(2013)「生活の質に関する調査」、三重県(2016)「みえ県民意識調査分析レポート(平成27年度)」

設問が異なる場合、カッコ内に具体的設問を記載した。

( 2 ) 属性別順位

性別、年代、主観的幸福度の属性別に重視した項目の順位を見ると、基本的に同様の傾向は見られたものの、性別では大きな差がなかったのに対して、年代別では比較的大きな差があった。

表9 幸福かどうか判断する際に重視する項目の順位（性別、年代、主観的幸福度別）

	性別		年代							主観的幸福度		
	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	幸福	どちらでもない	幸福でない	
3 健康状況	1	1	3	3	2	1	1	1	2	1	2	
7 家族関係	3	2	2	2	3	3	2	2	1	3	3	
1 家計の状況	2	3	4	1	1	1	3	3	3	2	1	
16 居住環境	4	4	9	7	7	4	4	4	4	4	4	
4 自由な時間・充実した余暇	5	5	1	5	5	6	5	5	5	5	5	
8 友人関係	8	6	5	9	9	8	6	6	6	7	9	
2 就業状況	7	7	6	4	4	5	9	13	9	6	6	
5 仕事のやりがい	6	8	7	6	6	7	8	10	8	8	7	
15 自然環境	9	9	11	12	11	9	7	7	7	10	13	
9 職場の人間関係	10	10	8	8	8	10	12	16	11	9	8	
12 治安防災体制	11	11	12	11	12	11	10	8	10	11	11	
10 地域コミュニティとの関係	12	13	15	14	14	12	11	9	12	12	12	
11 子育て環境	13	12	10	10	10	13	14	15	13	13	10	
13 教育環境	15	14	14	13	13	14	16	12	15	14	14	
6 社会貢献	14	15	13	15	15	15	13	11	14	15	15	
14 地域の歴史・文化	16	16	16	17	17	16	15	14	16	16	17	
17 その他	17	17	17	16	16	17	17	17	17	17	16	

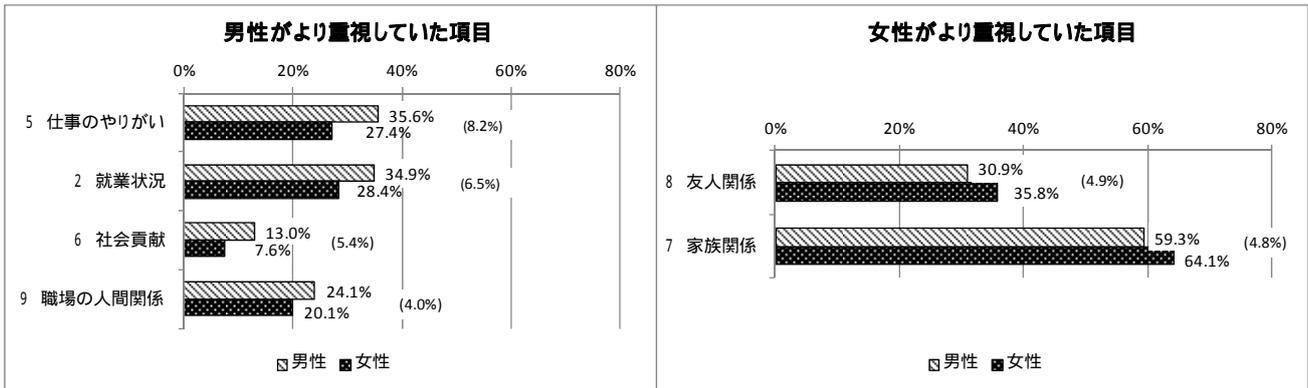
( 3 ) 性別集計

男女別に集計した場合、次の項目を重視する傾向が見られた。

男性：仕事のやりがい、就業状況、社会貢献、職場の人間関係

女性：友人関係、家族関係

表10 幸福かどうか判断する際に重視する項目（男女別）



男女で選択する割合の差が大きい項目を掲載。カッコ内に差を示す。

(4) 年代別集計

年代別に集計した場合、次の項目を重視する傾向が見られた。

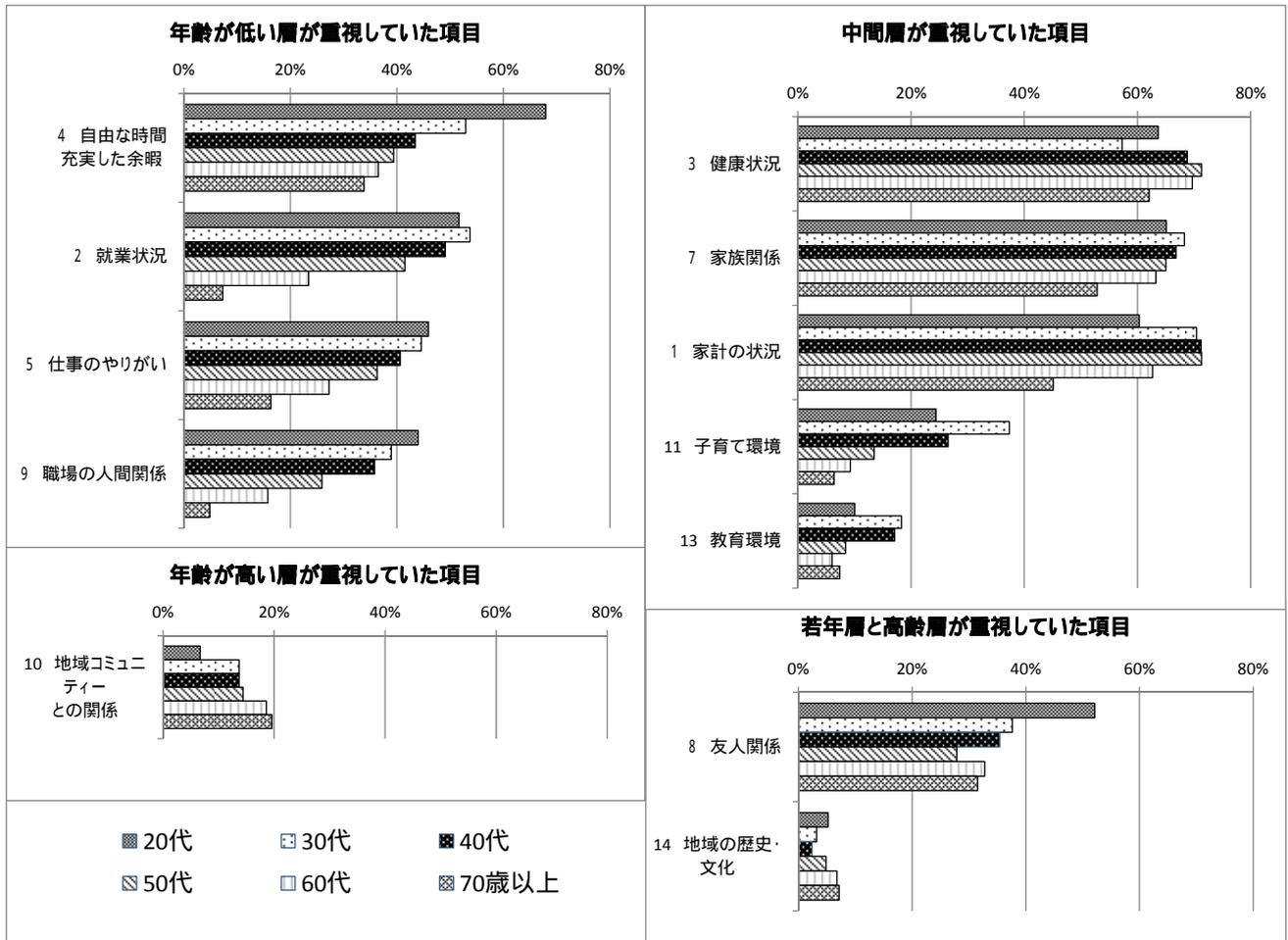
年齢が低い層：自由な時間・充実した余暇、就業状況、仕事のやりがい、職場の人間関係

年齢が高い層：地域コミュニティーとの関係

中間層（30～50代）：健康状況、家族関係、家計の状況、子育て関係、教育環境

若年層（20代）と高齢層（60代以上）：友人関係、地域の歴史・文化

表 11 幸福かどうか判断する際に重視する項目（年代別）



( 5 ) 主観的幸福度の評価結果別集計

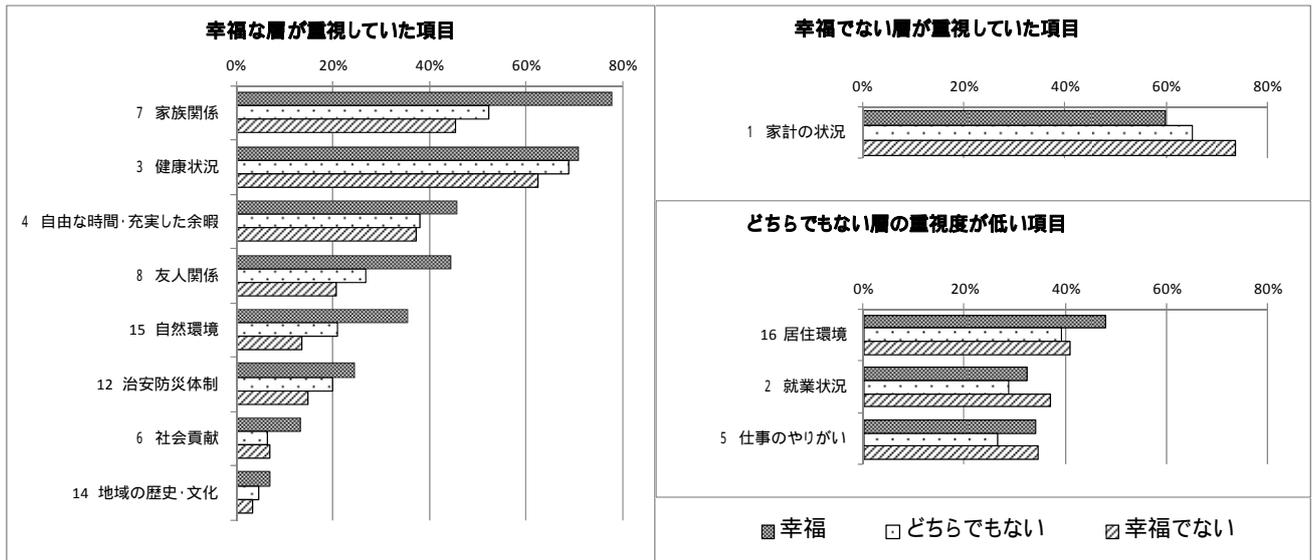
主観的幸福度別に集計した場合、次の傾向が見られた。

幸福な層（幸福である+やや幸福である）：家族関係、自由な時間・充実した余暇、友人関係、自然環境、社会貢献等を重視する。

幸福でない層（あまり幸福でない+幸福でない）：家計の状況を重視する。

どちらでもない層：他の層より重視度が高い項目はなし（居住環境、就業状況、仕事のやりがいの重視度が低かった）

表 12 幸福かどうか判断する際に重視する項目（主観的幸福度の評価結果別）



( 6 ) その他重視した項目として挙げられたもの

101 件の意見があり、主に次のような意見があった。

東日本大震災津波の幸福への影響に関する意見

震災により、たくさんのものを失ったが、家族全員の命が助かった。  
震災を経験し、現在は電気や水道が使えることを判断材料とした。  
まだ仮設住宅生活のため心がいつも晴れない。

職場環境に関する意見

職場での理不尽な扱い。  
会社のコンプライアンスに疑問がある。

医療や介護等に関する意見

医療環境。  
介護中心の生活で自分を見失いがち。  
障がい者施設に通所出来なくなり、家族の生活も変わってしまった。

内面や宗教に関する意見

なりたい自分に近づいているか。  
自分はクリスチャンであり、自分が死んでから天に行くことが最高の幸せ。

ガバナンスに関する意見

市民、県民の訴え、お願い事項について、速やかに対処する県であること。

その他

農家の後継ぎがない。  
出会い。  
犬と猫がいる。  
世界平和。

自由記述欄の回答に基づき記載

【結果概要】

- ・ 全体として、家族、安全に関する実感が高く、健康、子育て、余暇及び収入に関する実感が低かった。
- ・ 既存事例で採用されている12領域については、強弱の差はあるものの、主観的幸福度と一定の相関が見られた。

1 設問

既存の調査において幸福に関連するとされている12領域の実感と、主観的幸福度との相関等を調べるため、先行研究等における事例を参考に、次の設問により調査対象者の領域別幸福度を調査した。

選択肢については、県民意識調査の既存の項目と合わせ、5段階評価とした。

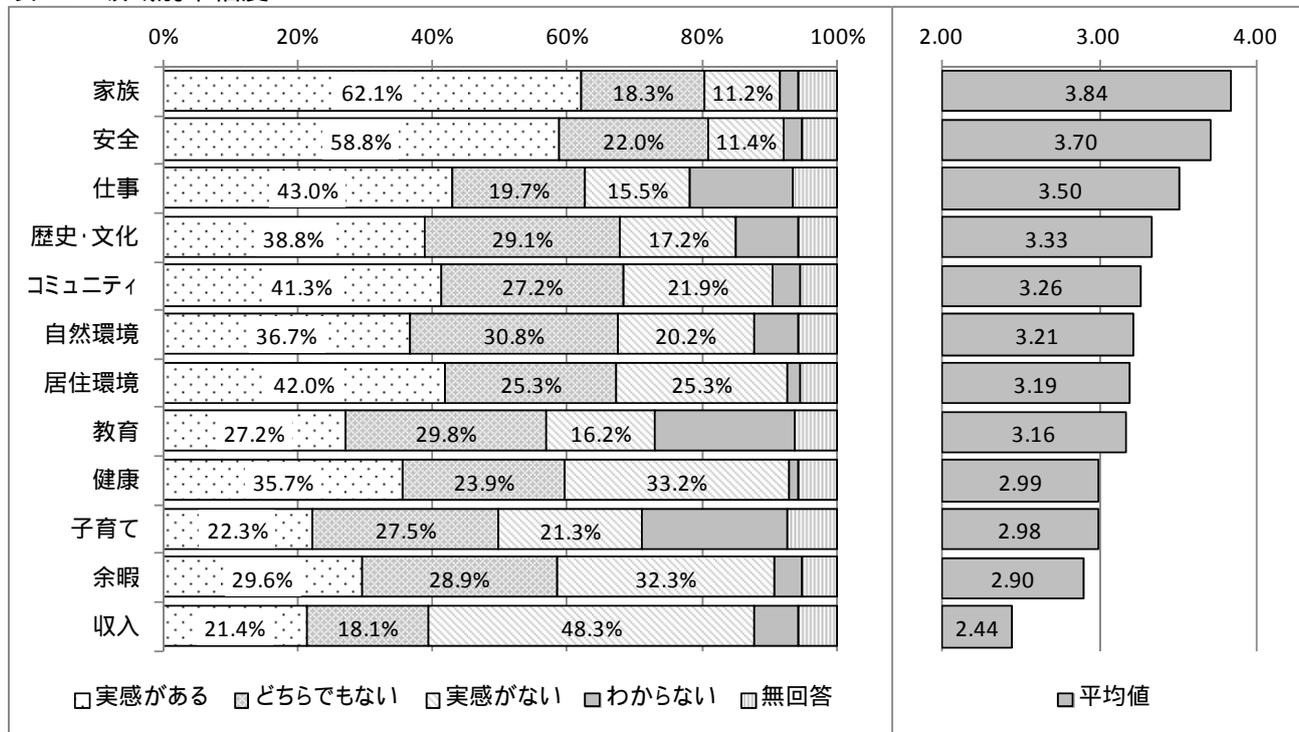
設問	仕事にやりがいを感じますか【仕事】 必要な収入や所得が得られていると感じますか【収入】 ころやからだ健康だと感じますか【健康】 家族と良い関係がとれていると感じますか【家庭】 子育てがしやすいと感じますか【子育て】 お住まいの地域は安全だと感じますか【安全】 地域社会とのつながりを感じますか【地域】 子どものためになる教育が行われていると感じますか【教育】 地域の歴史や文化に誇りを感じますか【歴史・文化】 地域の自然環境が守られていると感じますか【自然環境】 住まいに快適さを感じますか【居住環境】 余暇が充実していると感じますか【余暇】
選択肢	5 感じる 4 やや感じる 3 どちらともいえない 2 あまり感じない 1 感じない 0 わからない

## 2 集計結果

### (1) 県全体

家族、安全及び仕事に関する実感が高かった。  
健康、子育て、余暇及び収入に関する実感は低かった。

表 13 領域別幸福度



### (2) 主観的幸福度との相関

県民意識調査結果によると、主観的幸福度と12領域毎の幸福実感には、一定の相関が見られた。また、領域ごとに、相関の強弱があった。

表 14 主観的幸福度と領域別幸福度の相関

	主観的幸福度	仕事	収入	健康	家族	子育て	安全	コミュニティ	教育	歴史・文化	自然環境	居住環境	余暇
主観的幸福度	1.00												
仕事	0.42	1.00											
収入	0.41	0.42	1.00										
健康	0.50	0.42	0.36	1.00									
家族	0.52	0.28	0.23	0.42	1.00								
子育て	0.40	0.24	0.31	0.36	0.37	1.00							
安全	0.34	0.24	0.27	0.33	0.29	0.43	1.00						
コミュニティ	0.33	0.26	0.22	0.32	0.28	0.38	0.49	1.00					
教育	0.28	0.25	0.22	0.30	0.25	0.46	0.37	0.50	1.00				
歴史・文化	0.24	0.24	0.19	0.21	0.22	0.25	0.23	0.38	0.40	1.00			
自然環境	0.24	0.18	0.23	0.27	0.21	0.33	0.40	0.40	0.43	0.44	1.00		
居住環境	0.50	0.31	0.34	0.41	0.35	0.42	0.40	0.36	0.36	0.33	0.38	1.00	
余暇	0.53	0.32	0.35	0.48	0.38	0.40	0.33	0.38	0.33	0.28	0.33	0.58	1.00

0 r 0.2

0.2 < r 0.4

0.4 < r 0.7

0.7 < r 1.0

#### 相関係数の大きさの記述

0.0 |r| 0.2 ほとんど相関はない

0.2 < |r| 0.4 相関はあるが低い

0.4 < |r| 0.7 かなり相関がある

0.7 < |r| 1.0 強い相関がある

出典 山上暁他「要説 心理統計法」



# 第2回「岩手の幸福に関する指標」研究会 資料

## 主な論点

### 第2回研究会で主に議論いただきました内容

#### 1 幸福の概念

議論の前提として、先行事例等を基に一定の共通認識を整理する。

#### 2 幸福に関連する領域

先行事例を基に幸福に関連する領域を検討する。

#### 3 指標の表現方法

個別指標の集まりで示すか、一つの数値に統合するか検討する。

#### 4 指標の種類

指標の構成において、主観的指標、客観的指標の取扱いをどうするか。また、指標設定にあたっての考慮事項(属性、岩手が目指すゆたかさ)を検討する。

#### 5 指標の活用方法

政策評価における指標の活用のあり方や、県民参画による指標の活用方策などについて検討する。

# 検討事項1 幸福の概念

## 1 基本的な考え方(案)

- 指標の検討に当たっては、個人が感じる幸福感とそれを支える様々な要因を評価できるツールとすることが重要。また、それを県民にわかりやすく伝え、幸福について考えていただくきっかけとすることも重要。
- 一方で、幸福を感じる要素には個人差があり、行政が「何が幸福であるか」を定義すること等により、「幸福」を押し付けることのないようにする必要。
- そのため、まずは、県民意識調査の結果等から県民が幸福感を感じる要素を分析し、その結果を基本として議論を進めることとしてはどうか。

幸せというのは統合的な指標だが、少し分解することにより、どれだけポジティブな心の動きを表現し、皆さんにわかりやすく伝えていけるかが大事だと考える。  
【第1回研究会意見】

「幸福度指標」とは、個人が感じる「幸福感」とそれを支える様々な要因を、地域、時系列で比較可能にした物差しであり、評価のためのツールである。したがって、指標作成そのものに意味があるわけではない。

「幸福度指標」作成の意味があるとするれば、それは「幸せ」に光を当てることによって、これまで政策などにおいて焦点化されてこなかった「個人がどう気持ちを持っているのか」に着目することにある。

出典：内閣府幸福度に関する研究会(2011)「幸福度に関する研究会報告書」

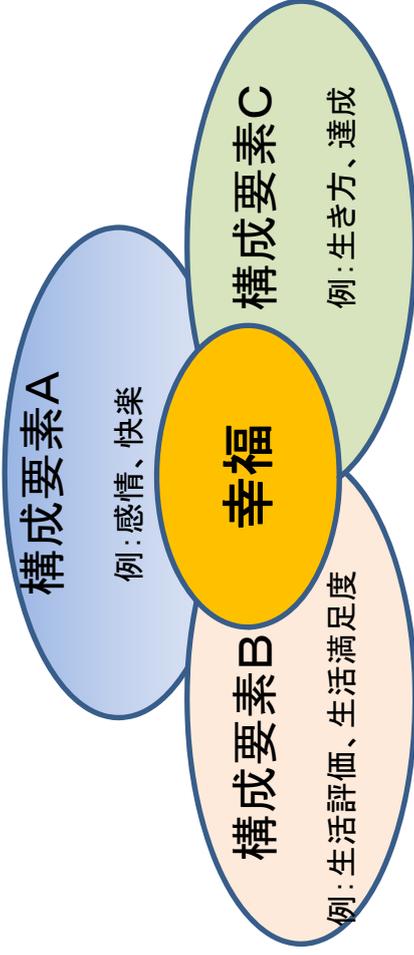
すべての人が同じように幸福を定義しているわけではない。すべての人が同様な方法で幸福を実現するわけではない。したがって立法者は、研究成果を用いて、すべての国民に対して画一的な幸福への処方せんを押し付けることがないよう、注意しなければならぬ。

出典：デレック・ボック(2011)「幸福の研究」

## 2 先行研究等（幸福に関する研究モデル）

幸福に関する研究モデルは複数あるが、内閣府の幸福度指標試案や荒川区などでは、政策評価への活用しやすさ等の観点から、モデル2を採用している。

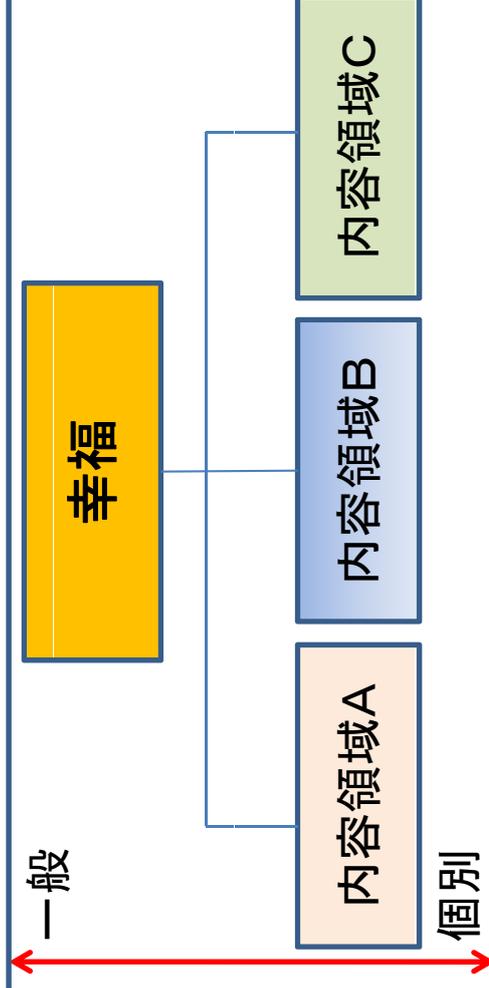
### ○幸福に関する研究モデル（例）



#### モデル1

幸福を複数の構成要素からなる概念とするもの。

例：エド デイナー(2009,2010)「主観的幸福感」  
OECD(2015)「主観的幸福を測る OECDガイドライン」等



#### モデル2

一般、個別の水準を設けて幸福を理解しようとするもの。

一方の極に一般水準の幸福があり、他方の極に内容領域をともなう個別水準の幸福を置く。

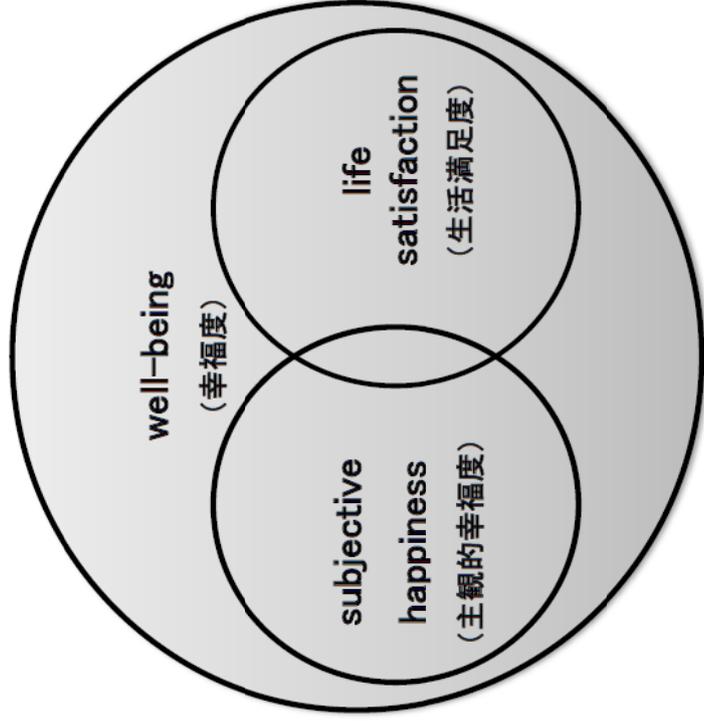
※内容領域は、家族、学校、仕事、余暇等である。

出典：溝上 慎一(2012)「学校教育で『幸福』をどのように捉えればよいか」を参考に作成

## 2 先行研究等(幸福度と生活満足度の違いについて)

生活満足度と幸福度は異なる概念として整理している研究がある。

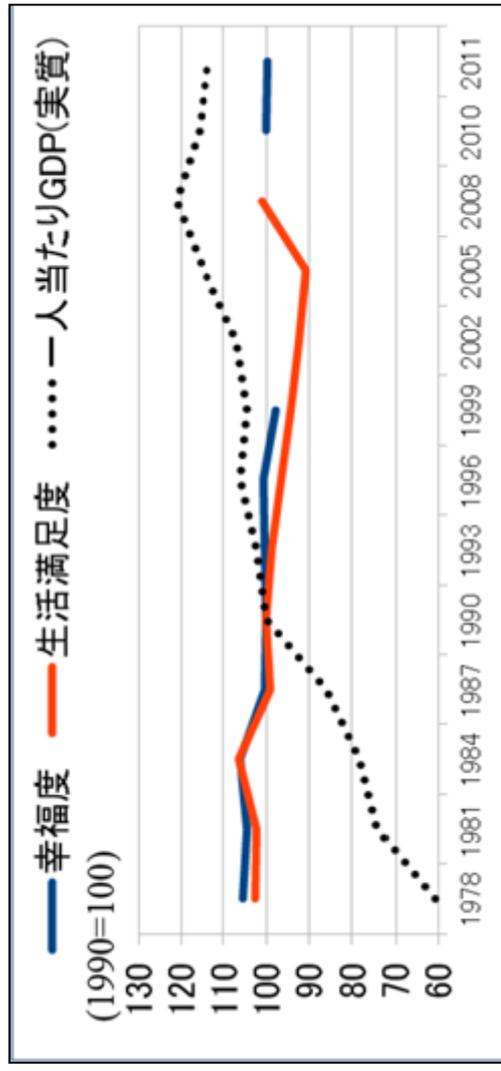
幸福度の概念



出典：(財)東北活性化研究センター(2012)  
「『幸福度の定量化に関する調査研究』  
中間報告書」

happinessはどちらかというと精神的な幸福感を表し、主観的である。また、生活満足度はlifeという単語がついているように、日々の生活にどれだけ満足しているかということであり、金銭的な概念による幸福感、満足感が含まれる。

出典：(財)東北活性化研究センター(2012)  
「『幸福度の定量化に関する調査研究』中間報告書」



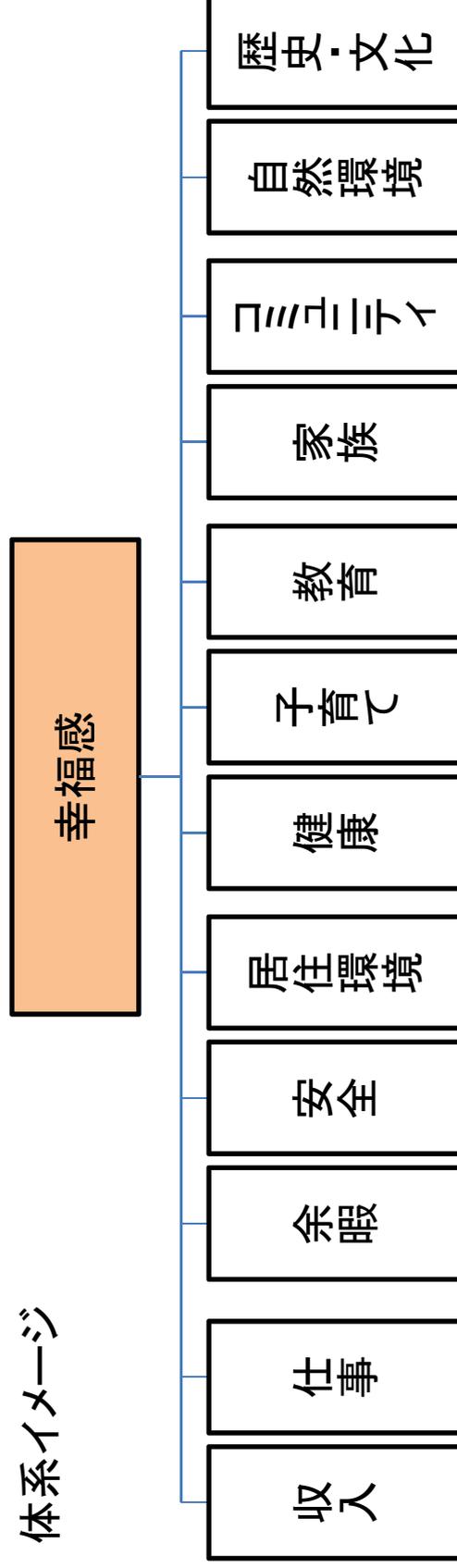
出典：内閣府幸福度に関する研究会(2011)  
「幸福度に関する研究会報告書」

## 検討事項2 幸福に関連する領域

### 1 基本的な考え方(案)

- 幸福に関連する領域については、先行研究や県民意識調査等に基づき、次の12領域を基本としてはどうか。
- ① 【仕事】【収入】【健康】【家族】【子育て】【居住環境】【余暇】
  - ② 【安全】【コミュニティ】【教育】【歴史・文化】【自然環境】
- 県民意識調査の結果、①の領域は幸福感との相関が強く、②の領域はそれほど相関が強くないことから、指標設定の際に留意する必要があるのではないか。  
検討事項4で検討

#### 体系イメージ



・最低限の収入が得られるような仕事がないと、ゆたかかさの議論もできないのではないか。【第1回研究会意見】

## 2 先行研究等①(領域に関する事例)

先行事例によると、幸福に関連する領域は、次の12の領域に整理される。

実施者	仕事	収入	健康	家族	子育て	地域	安全	教育	歴史文化	自然環境	居住環境	余暇	その他
ブータン													
イギリス													
CMEPSP													
OECD													
法政大学													
内閣府													
東北活性化研究センター													
熊本県													
福井県他													
富山県													
京都府													
三重県													
新潟市													
荒川区													
滝沢市													

経済成果と社会進歩の計測に関する委員会(通称:ステイグリッツ委員会)

出典:(公財)荒川区自治総合研究所「荒川区民幸福度(GAH)に関するプロジェクト中間報告書」及び(公財)東北活性化研究センター「『幸福度の定量化に関する調査研究』中間報告書」を参考に作成

## 2 先行研究等②(領域ごとの研究等)

この12領域が、幸福度に影響を与えているという研究結果がある。

領域	主な先行研究等	内容
仕事	Clark and Oswald(1994) Winkelmann and Winkelmann (1998) 大竹(2004) 筒井他(2009)など	失業者は幸福度が低いとの結論が多い。 その他に、退職者、非労働力者は幸福度が高い(Frey and Stutzer 2004)、パート・アルバイトの幸福度は低い(佐野・大竹 2007)、との指 摘もある。
収入	Frey and Stutzer (2000) 大竹(2004) 山根他(2008) 筒井他(2009) 京都大学他(2012)など	所得が高い人は幸福度が高いとの結論が多い。 その他に、所得上昇に伴い幸福度の増加率は逡減する、所得が一定 水準を超えると逆に低下する(筒井他 2009)、幸福度は相対的な所得 額に依存する(Easterlin 2001)などの指摘がある。
健康	Lyubomirsky and Lepper (2003) Marmot (2003) Sharpe et al(2010) 京都大学他(2012)など	健康状態の自己評価と幸福度との間に正の相関があるとの結論が多 い。
家族	Di Tella et al.(2003) Frey and Stutzer(2004) 大竹(2004) 筒井他(2009) 京都大学他(2012)など	未婚者は幸福度が低く、結婚・婚姻によって幸福度が高まるとの結論 が多い。 また、世帯人数が多くなるほど幸福度は低くなるとの結果もある(筒井 他2005)

出典:和川央(2011)「住民の生活満足度と個人属性の関連度－順序ロジット・モデルによる意識調査データの分析－」、  
京都大学(2012)「持続可能な発展のための新しい社会経済システムの検討と、それを示す指標群の開発に関  
する研究 最終研究報告書」を参考に作成

## 2 先行研究等②(領域ごとの研究等)

領域	主な先行研究等	内容
子育て	Frey and Stutzer(2005) Veenhoven (2006) 佐野・大竹(2007) 筒井他(2009) 京都大学他(2012)など	幸福度と子の有無は関係ない(統計的に有意ではない)との結論が多い。 その他に、子どもがいると幸福度が高い(内閣府 2008)、子どもがいると幸福度が低く、子どもの数が多くなればより低くなる(Di Tella et al. 2003)、子どもを持つことは幸福度を高め、一方で、生活満足度を引き下げる(白石2007)などの指摘もある。
コミュニテイ	Putnum (2001) Helliwell (2003) Cham and Lee (2006) Diener and Biswas-Diener (2008) 京都大学他(2012)など	ソーシャル・キャピタル(社会関係資本)と幸福度の関係を分析した研究が複数あり、ソーシャル・キャピタルが存在する社会では、そうでない社会よりも幸福度が高いとの結論が多い。
安全	國光(2008、2010) 京都大学他(2012) 小塩(2014)	居住地域への満足度(治安)が主観的幸福度に影響を与え、という結論が多い。
教育	筒井他(2005) Frey and Stutzer(2005) 佐野・大竹(2007) Randolph他(2010) 京都大学他(2012)など	教育水準が高い人や、学校生活の満足度が高いほど幸福度が高いとの結論が多い。 その他に、学歴(教育水準)は幸福度とほとんど関連性がない(前田他1979)との結論もあり、教育により野心レベルが上昇し、幸福度にも与える影響を相殺しているとの指摘もある。

## 2 先行研究等②(領域ごとの研究等)

領域	主な先行研究等	内容
歴史・文化	北山(2002) 大石(2009) 内田他(2012) 広井(2012) 東北活性化研究センター(2012)	文化による幸福感の違いに着目した研究が複数ある。 歴史・文化活動への満足度と幸福度の関係を研究した事例は見当たらないが、人口減少・成熟時代においては、各地域の固有の価値や多様性ということが重視されること、文化は人々の心の拠り所・精神的な支えとなる要素であり特に東北では考慮すべき、等の結論がある。
自然環境	Welsch(2006) Rehdanz and Maddison(2008) MacKerron and Mourato(2009) 倉増他(2009、2010) 京都大学他(2012)など	大気汚染が幸福度に負の影響を与えている、居住地域の自然環境を高く評価している人ほど幸福度が高い、との結論が多い。 その他に、自然環境は生活満足度に直接影響を与えていない(和川2011)との結論もある。
居住環境	Evans et al.(2001) Domanski, et al.(2006) 國光(2008、2010) 京都大学他(2012) OECD(2012)など	住環境が主観的幸福感に影響を与えているという結論が多い。
余暇	M.Argyle(1996) Frank(2005) Frey and Stutzer(2005) OECD(2012)	余暇活動が主観的幸福感に正の影響を与えたとの結論が多い。 ただし、その活動内容により影響は異なり、抑鬱や不安を軽減させるスポーツ活動や、社交クラブ、音楽・演劇団体、スポーツ・チームへの参加といったグループ活動は特に満足をもたらすが、テレビの見すぎは不幸との相関を示すとされる。

### 3 県民意識調査結果

主観的幸福度と12領域毎の幸福実感には、一定の相関が見られる。また、領域ごとに、相関の強弱があり、収入等の経済的要素より高い領域がある。

	主観的幸福度
余暇	0.53
家族	0.52
健康	0.50
居住環境	0.50
仕事	0.41
収入	0.40
子育て	0.40
安全	0.34
コミュニティ	0.33
教育	0.28
歴史・文化	0.24
自然環境	0.24

いずれの領域も主観的幸福度との一定の相関が見られる。

相関係数の大きさの記述

0.0  $|r|$  0.2 ほとんど相関はない

0.2  $< |r|$  0.4 相関はあるが低い

0.4  $< |r|$  0.7 かなり相関がある

0.7  $< |r|$  1.0 強い相関がある

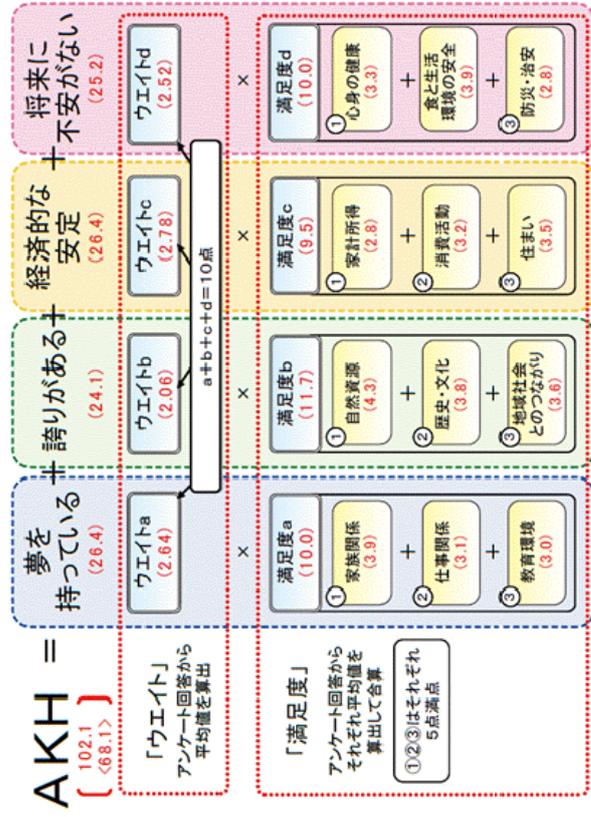
出典 山上暁他「要説 心理統計法」

# 検討事項3 指標の表現方法

## 1 基本的な考え方(案)

- 指標の表現方法には、複数の指標を1つの数値に統合する「統合方式」と、個別指標の集まりをダッシュボードで示す「ダッシュボード方式」が考えられる。
  - ①本県の強みや弱みを多面的に分析し、新たな施策の展開への活用を重視すること
  - ②数字が一人歩きし、県民の実感とかい離してしまうのを避けること
- といった観点から、ダッシュボード方式を採用するのがよいのではないか。

### 統合方式



### ダッシュボード方式

柱	指標	数値	順位
主観的幸福感	主観的幸福感(今後、調査)	25%	1
	生活保護受給者率	77%	11
	食料自給率	95.2%	25人
	西宮表示が適正な店舗の割合(独自の自主衛生管理に関する講習会(食の安全アカデミー)の受講者数(累計))	98.7%	437万円
	消費生活相談解決率	1,701万円	20
	1世帯当たり消費現在高	78.3%	1
	1世帯当たり貯蓄現在高	17.62層	1
	住み良さに関する意識(今後調査)	78.6%	8
	持ち家比率	68%	4
	1人当たり豊度	40%	6
住居・居住環境	下水道普及率	61.1件	16
	住宅の耐震化率	47.2件	77人
	高齢者が居住する住宅のバリアフリー化率	77人	
	形迹認知件数(人口1万人当たり)		
	交通事故発生件数(人口1万人当たり)		
	気象情報及び避難誘導が可能な数		
	急救命士数		
	住居		
	居住環境		
	住居環境		
経済社会状況	都市公達の面積(都市計画区域内人口比)	14.5㎡	10
	低床バス導入割合	28.1%	11
	市街地の道路網密度	1.86km	13
	高速道路の利用やすさ	20℃	
	道路の走りやすさ割合	67.8%	10
	市街地ゆとり歩道割合	77.6%	
	良好な調音形成が必要な道路の無電柱化率	50.1%	
	冬期走行しやすさ割合	51.1%	
	合計特殊出生率	1.42	33
	産婦人科・産科医数(千人当たり)	12.1人	6
小児科医数の人口1万人当たり	11.1人	6	
探査が分ると言える生徒の割合	60.1%		
私立学校の耐震化率	71.5%		
子どもの数割において、著陸が役割を果たしていると思ふ人の割合	10.6%		
いじめの認知件数(千人当たり)	小58件 中9.2件		
保育所入所待機児童数	0人	1	
病児・病後児保育事業実施箇所数	57か所		

出典：熊本県「『幸せ実感くまもと4カ年戦略』2014進捗レポート」

出典：富山県「富山県総合計画 新・元とやま創造計画」

## 2 先行研究等(統合方式とダッシュボード方式)

- 「統合方式」は、簡明さやメッセージ性の強さが長所として挙げられる一方、多様な視点や要素の捨象につながる点や指標を統合する際の困難さが短所として挙げられる。
- 「ダッシュボード方式」は、多面的な視点を政策の分析や評価に活用できる点が長所として挙げられる一方、強いメッセージを打ち出すことの困難さが短所として挙げられる。

統合方式	ダッシュボード方式
<p><b>長所</b> 簡明さ、メッセージ性の強さ、そしてそれによる<b>社会への影響力の強さ</b>。</p> <p><b>短所</b> 各部門の情報が集計値の中に消えてしまい、<b>多様な視点や要素の捨象</b>につながる。 指標の統合の際に、指数、貨幣換算など、様々な尺度を用いるが、その尺度が妥当なのか、また、<b>重み付けや縮尺は正しいのか等、価値尺度の妥当性に議論</b>がある。</p>	<p><b>長所</b> <b>視点の多面性と情報量の多さ</b>。多様な面から検証を行い、結果を政策の分析や評価に活用することができる。</p> <p><b>短所</b> 視点が多面的で情報量が多いがゆえに、明確で強いメッセージを打ち出すことができず、<b>広く社会の議論を喚起することが困難</b>。</p>

出典：京都大学(2012)「持続可能性指標と幸福度指標の関係性に関する調査研究報告書」

- ・ 自治体の政策評価では、他県よりも、過去の自分と比べているケースが多い。
- ・ 客観的指標の羅列ではただのデータブックになってしまい、議論が難しい。一方で、統合してしまうとよわからなくなってしまう部分もあることに留意する必要。  
【第1回研究会意見】

# 検討事項4 指標の種類（主観的指標と客観的指標）

## 1 基本的な考え方(案)

- 幸福に関する指標には、県民意識調査等のアンケート調査により把握される主観的指標と、統計データ等により把握される客観的指標が考えられる。
- 幸福は主観的な面も大きいことから、主観的指標を中心とした上で、主観のみでは捉えにくい点等を客観的指標で補足していく形がよいのではないか。

- ・どのような指標を作るかは、どのような考え方・価値判断に立つかにより変わるため難しい問題。そういう意味では、主観的指標に注目している。
- ・岩手県がいいところだということを、仮に数字で出しても説得力がなく、相対的に比較すると、いい結果は出にくい。一方で、岩手県をいいところだと感じている人は多く、そのギャップを埋めるために、主観的指標には意味があるのではないか。
- ・例えば、労働時間や収入など客観的な指標だけでは、情熱、希望、好奇心など内面的な要素は捉えきれないのではないか。
- ・主観指標と客観指標をクロスしていくやり方もあるのではないか。
- ・全国的と比較することができる指標と、持続可能性のような岩手だからこそできる指標が考えられるのではないか。

【第1回研究会意見】

## 2 先行研究等①（主観的指標と客観的指標）

- 近年の研究等では、幸福を測定するに当たっては、本人の主観をアンケート調査結果等から確認する方法が有益であるとされている。
- 採用方法はその目的等に応じて様々であるが、OECD、内閣府、東北活性化研究センターは主観的指標と客観的指標の組み合わせが適当としており、府県でも採用している事例がある。

・幸福度指標は主観的指標に加え、他の関連指標も視野に入れた上での総合的なものであるべきである。  
出典：広井良典(2015)「自治体・地域の幸福度指標への視点」

・主観的幸福度については、調査によって測ることができ、その尺度も妥当かつ信頼に足るものであり、政策策定にも有益な情報となることが明らかとなっている。

出典：OECD(2015)「主観的幸福を図る OECDガイドライン」

・幸福を測定するに当たっては、本人の主観をアンケート調査結果等から確認する手法が望ましいと考えられる。「直接関与している人の判断に頼る」というやり方は、経済学の伝統的な手法に基づくものでもある。

出典：ブルーノ・S・フライ & アロイス・スタッツァー(2005)「幸福の政治経済学」

指標の種類	機関名
①主観的指標主体	三重県、熊本県など
②客観的指標主体	新潟市、ふるさと知事ネットワークなど
③主観的指標と客観的指標の組み合わせ	内閣府、東北活性化研究センター、富山県、京都府、荒川区、OECDなど

## 2 先行研究等②(客観的指標の全国比較)

他府県では、全国的に比較できる客観指標について、順位や全国水準を記載している事例がある。

### とやま幸福度関連指標

主観的幸福感	幸福度に関連の深い指標	総合計画記載数値	順位	H26年度未実績	順位
主観的幸福感	主観的幸福感 現在の幸福の程度を「とても幸せ」10点、「とても不幸」0点として点 数化した調査の点数の平均値	—	—	6.5 点	—
	生活保護被保護実人員比率 食料自給率 食品表示が適正な店舗の割合 自主衛生管理に関する講習会(食の安全アカデ ミー)の受講者数(累計) 消費生活相談解決率 1世帯当たり負債現在高 1世帯当たり貯蓄現在高	2.5 % 77 % 95.2 % 25 人 98.7 % 437 万円 1,701 万円	1 10 — — — 20 20	3.2 % 74 % 96.6 % 69 人 98.7 % 420 万円 1,632 万円	1 9 — — — 15 21
住居・居住環境	住み良さに関する意識 「非常に住みよい」+「まあまあ住みよい」 持ち家比率 1人当たり豊数 下水道普及率 住宅の耐震化率 高齢者が居住する住宅のバリアフリー化率 刑法犯認知件数(人口1万人比) 交通事故発生件数(人口1万人比) 気管挿管及び薬剤投与が可能な救急救命士数 都市公園の面積(都市計画区域人口比) 低床バス導入割合 市街地の道路網密度 高速度道路の利用しやすさ 道路の走りやすさ割合 市街地ゆとり歩道割合 良好な景観形成が必要な道路の無電柱化率 冬期走行しやすさ割合	78.3 % 17.6 豊 78.6 % 68 % 40.4 % 61.1 件 47.2 件 77 人 14.5 m <sup>2</sup> 28.1 % 1.86 km 20 IC 65.4 % 77.6 % 50.1 % 51.1 %	1 1 8 5 6 16 10 11 13 10 10 10 8	90.4 % 78.3 % 17.1 豊 82.2 % 68 % 45.5 % 57.8 件 40.7 件 159 人 14.9 m <sup>2</sup> 52.9 % 1.91 km 21 IC 67.1 % 78.5 % 57.0 % 53.2 %	1 2 8 5 8 19 10 8 12 10

### 京都指標

統計データ項目	性質別※	最新値	水準	
			調査年 (年度) (注)	◎全国最良値以上 ○全国平均以上 △全国平均以下
合計特許出生率	社会	1.24 人	2014年 (速報)	X
児童虐待相談対応件数(人口10万人当たり)	特	69.7 件	2013年度	△
いじめの認知件数(児童・生徒1000人当たり)	社会	99.8 件	2013年度	X
不登校児童・生徒数(小・中学校)(1000人当たり)	社会	11.2 人	2013年度	○
暴力行為の発生件数(小・中・高専学校)(児童・生徒1000人当たり)	社会	7.6 人	2013年度	X
刑法青少年被疑者(14～19歳少年人口1000人当たり)	社会	9.1 人	2014年	X
大学・短期大学等への進学率	社会	66.4 %	2014年度	◎
全国学力・学習状況調査 平均正答率(各科目平均値)	社会	66.2 %	2015年	○
学校の授業以外の勉強時間が1日当たり30分に満たない小学生の割合	社会	62.8 %	2015年	○
学校の授業以外の勉強時間が1日当たり30分に満たない中学生の割合	社会	14.4 %	2015年	○
全国体力・運動能力、運動習慣等調査 体力合計点(小学生)	社会	20.6 %	2015年	X
全国体力・運動能力、運動習慣等調査 体力合計点(中学生)	社会	53.62 点	2014年	△
全国体力・運動能力、運動習慣等調査 体力合計点(中学生)	社会	54.21 点	2014年	△
高等学校を中退した生徒の割合(中途退学率)	社会	41.75 点	2014年	△
完全失業率	社会	48.09 点	2013年度	○
有効求人倍率	社会	1.6 %	2014年	○
読書者利用率	社会	3.5 %	2014年	○
一人当たり区債費	社会	1.06	2014年度	△
一人当たり区債費	社会	1.95 %	2014年	○
社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士の登録者数(人口10万人当 たり)	社会	326,701 円	2014年度	△
平均救急搬送時間	社会	1,337.7 人	2014年度	○
国民健康保険料収納率	社会	31.9 分	2013年	○
生活保護人数(人口1000人当たり)	社会	93.52 %	2013年 (速報)	○
第一号被保険者(65歳以上)の要介護等認定者割合	社会	23.6 人	2014年	△
希望者全員が65歳以上まで働ける企業割合	社会	19.31 %	2014年度	△
	社会	73.8 %	2014年度	○

### 3 県民意識調査結果

県民意識調査結果によると、主観的幸福度と12領域毎の幸福実感について、相関が弱い領域もある。

	主観的幸福度
余暇	0.53
家族	0.52
健康	0.50
居住環境	0.50
仕事	0.41
収入	0.40
子育て	0.40
安全	0.34
コミュニティ	0.33
教育	0.28
歴史・文化	0.24
自然環境	0.24

#### 相関係数の大きさの記述

0.0 <math> r  < 0.2</math>	ほとんど相関はない
0.2 <math><  r  < 0.4</math>	相関はあるが低い
0.4 <math><  r  < 0.7</math>	かなり相関がある
0.7 <math><  r  < 1.0</math>	強い相関がある

出典 山上暁他「要説 心理統計法」

主観的幸福度との相関が相対的に弱い領域がある。

## 検討事項4 指標の種類（指標設定の考慮事項）

### 1 基本的な考え方(案)

- 指標の設定に当たっては、世代やライフステージ等の属性によって、幸福感が異なることを考慮する必要はないか。
- また、「岩手らしさ」を考えるに当たって、①指標の内容、②指標の設定方法のアプローチがあるのではないか。

#### ○ 属性の考慮

指標の設定に当たっては、世代や生活の特徴を考慮する必要があるのではないか。

【第1回研究会意見】

子ども・若年層と高齢者が幸福度において重視するものが違っているのは、出生から就学、就職、転職・転勤・転職、結婚、出産、子育て、退職、離別など人生で様々な経験をし、ライフステージをたどることからも当然であろう。したがって、今回の幸福度指標の策定にあってもライフステージを勘案することが重要になってくる。

出典：内閣府幸福度に関する研究会(2011)「幸福度に関する研究会報告書」

- 岩手ならではの視点
- ・岩手県がいいところだということを、仮に数字で出しても説得力がなく、また、相対的に比較すると、いい結果は出にくい。
- ・全国的と比較することができる指標と、持続可能性のような岩手だからこそできる指標が考えられるのではないか。
- ・岩手らしい幸せが、たとえば自然が豊かとか人っこがいいとか決めめるのは、価値観の押し付けになる。指標の設定方法に新しさがある、というアプローチで岩手らしさを出していった方がいいのではないか。

【第1回研究会意見】

## 2-1 先行研究等①(属性を考慮している事例)

指標の設定に当たり、世代やライフステージを考慮している事例がある。

### 内閣府「幸福度指標試案」

対象	指標案	現在の把握状況	要検討課題
個人 若年	起業したいと思う者	総務省統計局「就業構造基本調査」(自分で事業を起こしたいと回答した者)	総務省の質問形式でなく、質的問いを検討すべき
個人 成人	就業希望をもちながら働けない者(特に女性)	厚生労働省「出生動向基本調査」(第1子の出生前後の継続就業率)	
個人 高齢者	社会活動参加率(特に80歳未満)	総務省統計局「社会生活基礎調査」(ボランティア活動行動率)、内閣府「国民生活意識調査」(ボランティア活動等への参加の有無、分野、参加回数・時間、参加理由)	「社会参加」には「仕事」も含めて考える

今回の幸福度指標試案においては、大きく「子ども・若年層」、「成人」の2層と「高齢者」を80歳前後で区切った計4つのステージで採用指標を検討することとした。

出典：内閣府幸福度に関する研究会(2011)  
「幸福度に関する研究会報告書」

### 滝沢市「幸福実感一覽表」

世代(歳)	理念	喜び・楽しさ	成長・学び
0歳	<b>すこやか世代</b> 象徴指標 子どもと一緒に過ごす回数(1週間) 目標値 (平成20年度) 46時間20分 (平成34年度) 47時間30分 <b>学び・成長世代</b> 象徴指標 仲の良い友だちの数 目標値 (平成20年度) 8.06人 (平成34年度) 10.00人	(子どもに)良い食習慣が身に付いていること 家族と一緒に食事をする回数(1週間) (平成20年度) 10.12回 (平成34年度) 14.00回 (子どもが)楽しい学校生活を過ごせること (子どもが)夢中になって取り組めることがあること 子どもが夢中になって取り組めることがあると感じる人の割合 (平成20年度) 49.9% (平成34年度) 67.0%	イキを生きる(1) 滝沢市 (子どもに)良い食習慣が身に付いていること 家族と一緒に食事をする回数(1週間) (平成20年度) 12.00回 (平成34年度) 14.00回 (子どもが)夢中になって取り組めることがあること 子どもが夢中になって取り組めることがあると感じる人の割合 (平成20年度) 39.5% (平成34年度) 50.0%
18歳	<b>自立世代</b> 象徴指標 多くの人のふれあいの機会があり、人間関係が良好であること 多くの人のふれあいの機会があり、人間関係が良好であると感じている人の割合 (平成20年度) 43.3% (平成34年度) 55.0%	多くの人のふれあいの機会があり、人間関係が良好であること 多くの人のふれあいの機会があり、人間関係が良好であると感じている人の割合 (平成20年度) 39.5% (平成34年度) 50.0%	情報時代に適応したモラル、スキルを学び、活かす機会があること 情報時代に適応したモラル、スキルを学び、活かす機会があること (平成20年度) 45.0% (平成34年度) 50.0%
50歳	<b>子育て世代</b> 象徴指標 子どもたちの成長を確認できること 子どもとの会話の時間(1週間) 目標値 (平成20年度) 27時間00分 (平成34年度) 28時間00分 <b>充実世代</b> 象徴指標 世代を越えて交流する機会があること 世代を越えて交流する機会があること (平成20年度) 23.2% (平成34年度) 40.0%	子どもたちの成長を確認できること 子どもとの会話の時間(1週間) (平成20年度) 27時間00分 (平成34年度) 28時間00分 世代を越えて交流する機会があること 世代を越えて交流する機会があること (平成20年度) 23.2% (平成34年度) 40.0%	趣味や特技を披露できる機会が地域にある人の割合 広重やインターネットなどで、地域の情報を収集・発信している人の割合 (平成20年度) 30.0% (平成34年度) 40.0%
65歳	<b>円熟世代</b> 象徴指標 心身ともに平気になれる趣味や活動を通して、地域に役立つ機会があること 心身ともに平気になれる趣味や活動を通して、地域に役立つ機会があること 地域に役に立つ機会を持っていると感じている人の割合 (平成20年度) 28.8% (平成34年度) 50.0%	心身ともに平気になれる趣味や活動を通して、地域に役立つ機会があること 心身ともに平気になれる趣味や活動を通して、地域に役立つ機会があると感じている人の割合 (平成20年度) 28.8% (平成34年度) 50.0%	趣味や特技を披露できる機会が地域にある人の割合 地域の伝統・文化や芸能などに継承できる機会があること 地域の伝統・文化や芸能などに継承できる機会があると感じる人の割合 (平成20年度) 15.7% (平成34年度) 25.0%

出典：第1次  
滝沢市総合  
計画(基本  
構想)

## 2-2 県民意識調査(世代差)

幸福を判断する際に重視した項目において、世代差が認められた。

	全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代
1位	健康状況	健康状況	健康状況	自由時間・余暇	家計の状況	家計の状況	健康状況	健康状況	健康状況
2位	家族関係	家計の状況	家族関係	家族関係	健康状況	健康状況	家計の状況	家族関係	家族関係
3位	家計の状況	家族関係	家計の状況	健康状況	健康状況	家族関係	家族関係	家計の状況	家計の状況
4位	居住環境	居住環境	居住環境	家計の状況	就業状況	就業状況	居住環境	居住環境	居住環境
5位	自由時間・余暇	自由時間・余暇	自由時間・余暇	友人関係	自由時間・余暇	自由時間・余暇	就業状況	自由時間・余暇	自由時間・余暇
6位	友人関係	仕事のやりがい	友人関係	就業状況	仕事のやりがい	仕事のやりがい	自由時間・余暇	友人関係	友人関係
7位	就業状況	就業状況	就業状況	仕事のやりがい	居住環境	居住環境	仕事のやりがい	自然環境	自然環境
8位	仕事のやりがい	友人関係	仕事のやりがい	職場の人間関係	職場の人間関係	職場の人間関係	友人関係	仕事のやりがい	治安防災体制
9位	自然環境	自然環境	自然環境	居住環境	友人関係	友人関係	自然環境	就業状況	地域コミュニティとの関係
10位	職場の人間関係	職場の人間関係	職場の人間関係	子育て環境	子育て環境	子育て環境	職場の人間関係	治安防災体制	仕事のやりがい

50代については、健康状況と家計の状況が同率1位であった

### 3 先行研究等①(独自指標の事例)

- 他府県等では、地域独自の指標を設定している事例がある。
- 岩手において全国水準が高いもの、低いものには以下のような例がある。

#### ○ 独自指標の例

自治体名	指標名
富山県	ライチョウ生息数
京都府	着物を着用している人の数
荒川区	あらかわ遊園来場数

#### ○ 全国水準が高い指標の例

指標名	順位	領域
三世代同居率	7	家族
住んでいる地域の行事に参加している率(中学生)	2	コミュニ ティ
ボランティア活動の年間行動者率(10歳以上)	5	安全
刑法犯認知件数	2	歴史文化
重要無形民俗文化財数	5	

指標名	順位	領域
国語の勉強が好きな生徒の率(中学校)	2	教育
不登校児童生徒数	1	居住環境
1住宅当たりの敷地面積	3	自然環境
森林面積	2	
食糧自給率(カロリーベース、生産額ベース)	5	

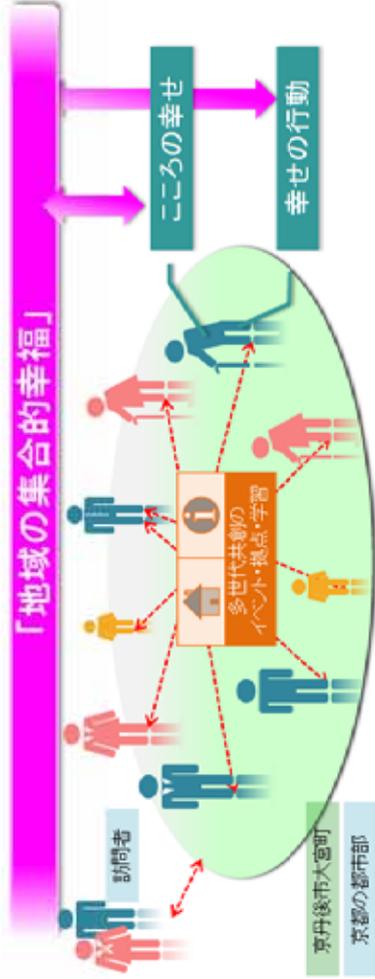
#### ○ 全国水準が低い指標の例

指標名	順位	領域
一人当たり県民所得	31	収入
健康寿命(男)	43	健康
自殺死亡率	46	
未婚者割合(45~49歳 男)	45	家族

指標名	順位	領域
大学進学率	44	教育
インターネット人口普及率	46	居住環境
趣味・娯楽の平均時間(有業者 男)	47	余暇
一人平均総実労働時間	46	

### 3 先行研究等②(独自の設定方法)

○ 近年、個人の幸福が周囲の幸福と影響し合うという考え方から、集合的な幸福(互いが互いの幸福を支える)についての研究が進められている。



個の幸福をこえて：  
「集合的幸福」の重要性

- ある文化や社会・組織の中で共有された幸福概念が重要
  - 日本ではバランス志向性や関係性（自然、地域、家族、組織）
- 個人の幸福追求だけでなく持続可能な社会に向けた発想の転換
- 地域はこれからの日本の幸福と健康を支える

- (1) 住民が自立性をもちながらも適切にながりをもち
- (2) 幸福が相互に関与し合い (e.g., 頼り合いがない状態)
- (2) 地域への価値と住民の幸福が高まる地域社会

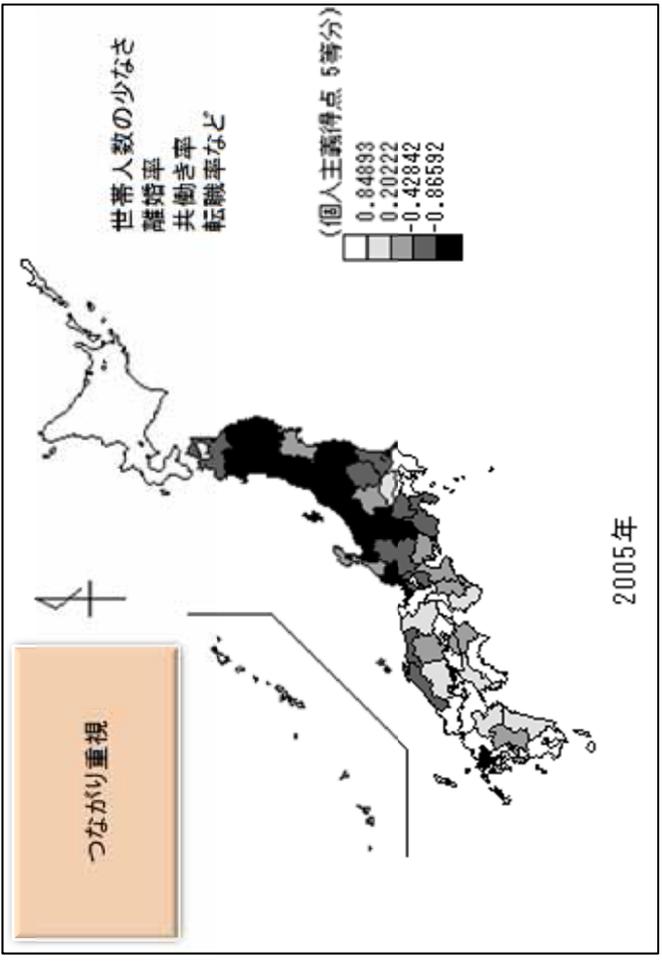
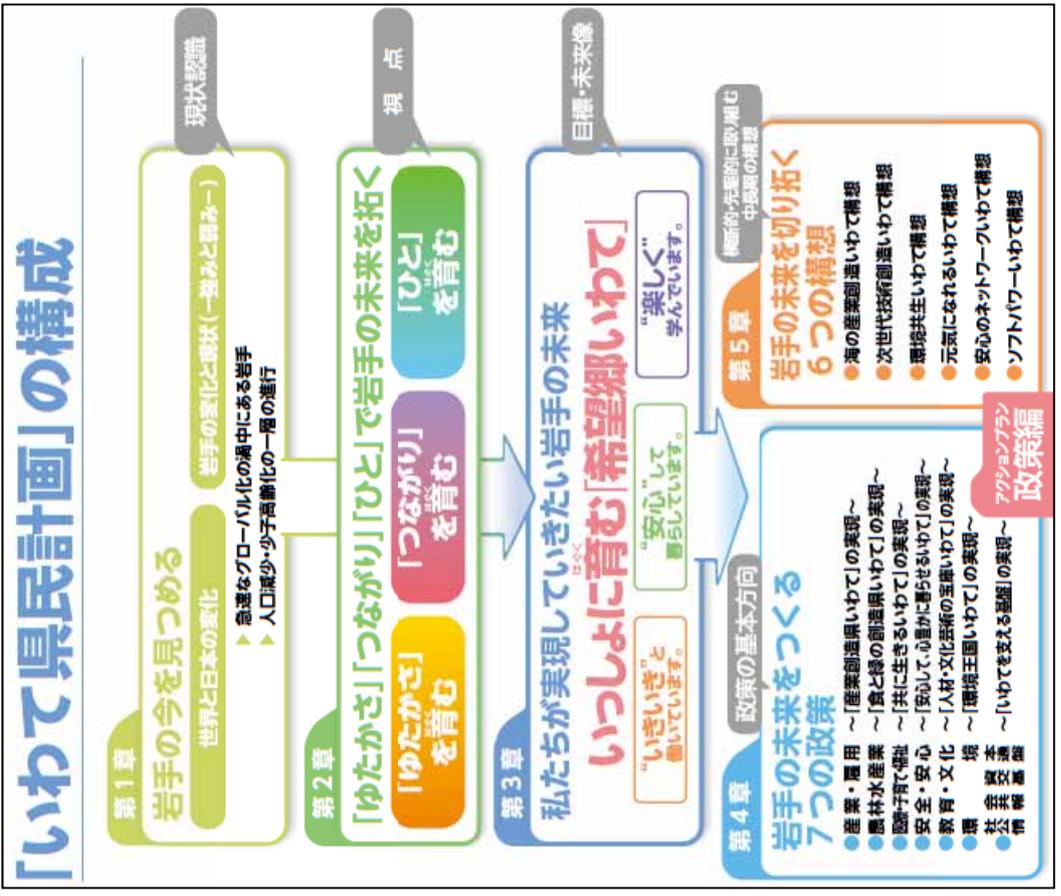
地域の価値の共創と共有  
住民間の相互の助け合いと信頼  
地域・社会の持続可能性  
排他性がなく、他の地域ともつながる



出典：内田 由紀子「いま『幸福』を考える」(第76回岩手県総合計画審議会資料)

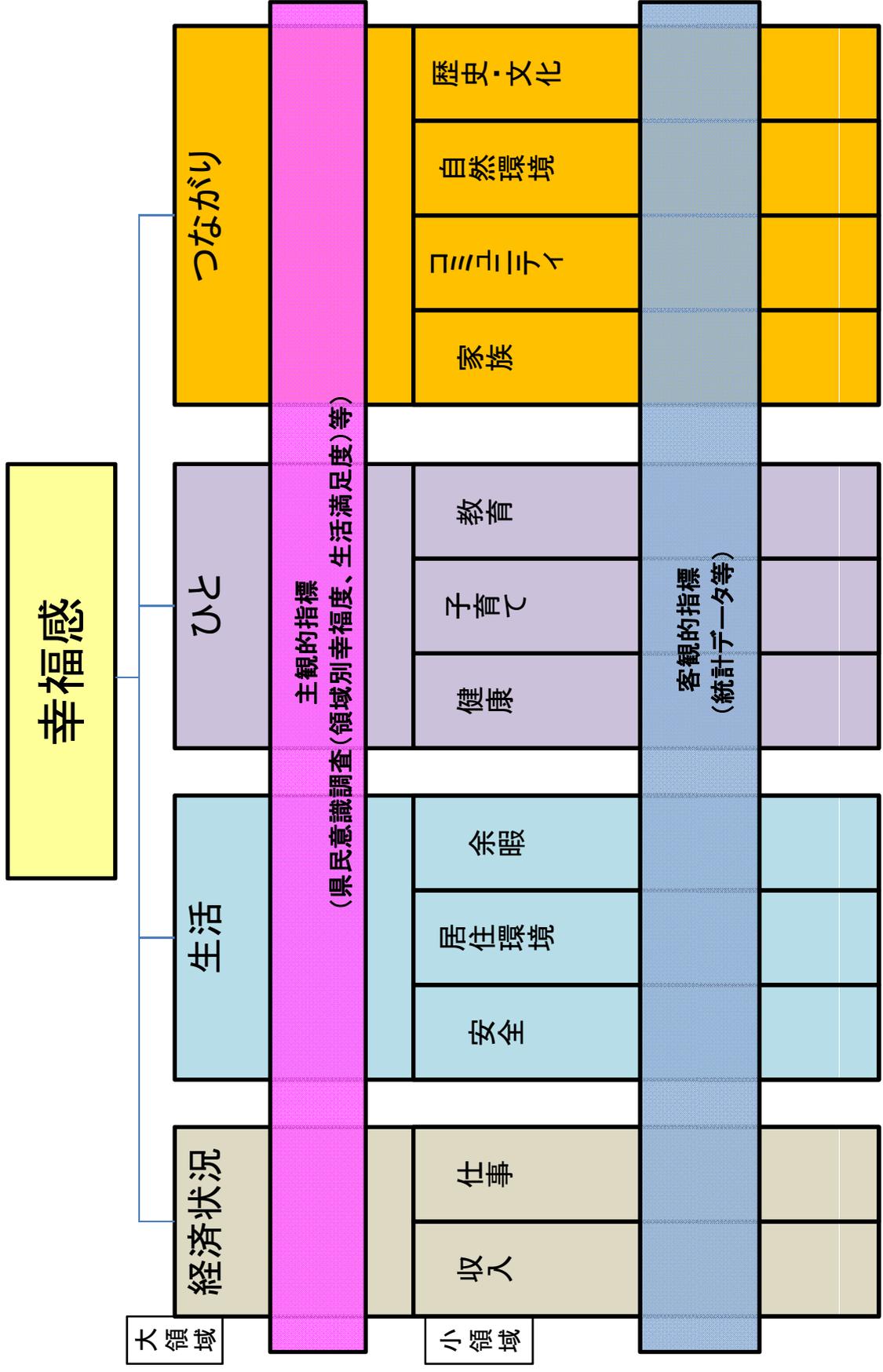
### 3 先行研究等②(独自の設定方法)

○ 岩手県ではこれまでも総合計画に位置づけるなど、つながりを重視している。



出典:内田 由紀子「いま『幸福』を考える」  
(第76回岩手県総合計画審議会資料)

# 幸福に関する体系イメージ(たたき台)



## 次回以降のスケジュール(予定)

### 8月～9月(別途調整) 第3回研究会

#### ご議論いただきたい主な論点(案)

- (継続)「岩手らしさ」を踏まえた指標設定の考え方について
- 具体的な主観的指標、客観的指標のイメージ(例)について
- 県民参画等による指標の活用方策について
- 中間報告に向けた考え方について

### 10月(別途調整) 第4回研究会

#### ご議論いただきたい主な論点(案)

- 中間報告について
- 今後更に議論すべき論点について

- ・政策評価に加えて、運動論的な部分で指標を仕掛けとして使えるような提案をしていきたい。
- ・県民が幸せについて考え、語り合える場というのも重要。
- ・幸せかどうかだけでなく、幸せになる努力ができる状況にあるか視点もあるのではないか。
- ・地域のまとまりをどの範囲で見るとするかという点は意識する必要。

【第1回研究会意見】